

平成 30 年度
内閣府委託調査

平成 30 年度地域活動における 男女共同参画の推進に関する 実践的調査研究

女性自治会長活動事例集

2019 年 3 月
アイ・シー・ネット株式会社

女性自治会長活動事例集

目 次

1. はじめにー地域活動における男女共同参画の現状と本事例集の目的

1-1 地域活動における男女共同参画の現状と政府の方針・取組	1-1
1-2 前年度までに実施した調査研究の概要	1-1
1-3 平成 30 年度調査研究の概要	1-2
1-4 本事例集の構成	1-2

2. 女性自治会長の好事例集

2-1 先進的な取り組みを行う女性自治会長へのインタビュー

インタビュー1「地域の発展は家庭から!女性が主役の自治会づくり(山梨県甲府市)」	2-1
インタビュー2「子どもたちから高齢者、みんなを巻き込んでの地域づくり(福岡県那珂川市)」	2-4
インタビュー3「解散寸前の自治会を救い、活発な自治会を実現(栃木県宇都宮市)」	2-9

2-2 女性自治会長の活動紹介

テーマ①多様な住民の参画による地域の活性化

①-1 住民が身近な存在とを感じる自治会

事例 1 子どもから大人まで郷土愛をもつ地域づくり(山口県防府市)	2-14
事例 2「手料理」でつなぐ住民の輪(大分県別府市)	2-16
事例 3 地域力の創生により、女性も男性も活躍する地域を(宮崎県宮崎市)	2-18
事例 4「自治会は一つのファミリー」を標語に、支え合う地域の実現(千葉県千葉市)	2-20
事例 5 地域みんなの声で作り上げる自治会活動(沖縄県竹富町)	2-22
事例 6 幅広い年代で作る女性部研修会(北海道北斗市)	2-24
事例 7 メールを活用して、住民が参加しやすい自治会に(京都府長岡京市)	2-26
事例 8 人とのつながりを重視して、支え合う自治会の実現を(山形県鶴岡市)	2-28

①-2 家族ぐるみでの参加が増加

事例 9 運営の工夫から家族での自治会参加と利用を促進(青森県三沢市)	2-30
事例 10 顔の見える関係の構築で住んでよかった街づくりを実現(新潟県新潟市)	2-32
事例 11「みんなで力を出し合うところ」としての自治会づくりを促進(広島県広島市)	2-34

テーマ②女性の視点を取り入れた取り組み

②-1 高齢者を元気にする自治会活動

事例 12 地域で高齢者を見守り、安心して暮らせる地域づくり(秋田県能代市)	2-36
事例 13 自治会独自で高齢者部を立ち上げ、活動を活性化(神奈川県相模原市)	2-38

事例 14 高齢者と若い世代、すべての人が暮らしやすい地域の実現(宮城県栗原市).....	2-40
---	------

②-2 子育て世代の声に寄り添った自治会活動

事例 15 子育て世代と協力し、地域の子どもは地域で育てる(滋賀県守山市)	2-42
事例 16 他部会と力を合わせて子どもが喜ぶ行事を開催（大阪府寝屋川市）	2-44
事例 17 世代間交流を促進! 減災につながる強いコミュニティづくり（大阪府堺市）	2-46
事例 18 自治会活動を効率化し、女性や子育て世代の参加を促進（高知県高知市）	2-48

②-3 女性の目線での地域の安全対策

事例 19 要援護者に配慮した防災の取り組み（東京都葛飾区）	2-51
事例 20 女性の目線から自宅でもできる防災対策を促進（静岡県静岡市）	2-52
事例 21 高齢者の見守りと災害時にも耐え得る住民・行政との関係づくり（和歌山県橋本市）	2-54
事例 22 自治体と協力し、子どもや高齢者の安全を守る(三重県伊勢市)	2-56
事例 23 町内パトロールで、安心安全な自治会づくり（愛媛県新居市）	2-58
事例 24 地域の高齢化に合わせた災害対策（茨城県古河市）	2-60
事例 25 毎日の声かけで高齢世帯を見守る（京都府京丹後市）	2-62

テーマ③持続的に女性自治会長が活躍できるような取り組みや周囲のサポート

③-1 女性の参加を促す運営面での工夫

事例 26 女性が参加しやすい工夫をしながら自治会運営（埼玉県飯能市）	2-64
事例 27 女性が集まる場を作り、女性のつながりを広げる（兵庫県小野市）	2-66
事例 28 地域の女性の声を聞いて、住みよい街づくり（静岡県浜松市）	2-68
事例 29 女性役員の割合を増やして、女性の活躍の裾野を広げる（岐阜県恵那市）	2-70

③-2 家庭・仕事と両立しながらの自治会運営

事例 30 負担にならない自治会活動により、多様な住民の参加を促進（宮城県仙台市）	2-72
事例 31 子育て、仕事と両立し、自治会運営（福岡県福岡市）	2-74

③-3 家族のサポートを得ながらの自治会運営

事例 32 会長としての活動の裏には家族支え（熊本県熊本市）	2-76
事例 33 家族に支えられながら自治会長を担う（岡山県岡山市）	2-78

③-4 女性のネットワークなどの協力を得ながらの自治会運営

事例 34 婦人会と協力して自治会活動を活性化（群馬県桐生市）	2-80
事例 35 女性が自治会長になったことで、女性の協力者が増加（佐賀県武雄市）	2-82
事例 36 自治会長の女子会を開催（奈良県生駒市）	2-84

**1. はじめにー
地域活動における男女共同参画の現状と
本事例集の目的**

1-1 地域活動における男女共同参画の現状と政府の方針・取組

これまで、地域で行われる様々な活動は、専業主婦を始めとした女性が多く担ってきた一方で、PTA や自治会・町内会等における会長職等の役職については、男性がその多くを占めてきました。しかし、多様な住民の地域活動への参画やリーダーとしての女性の参画を拡大し、地域活動における男女共同参画を推進することは、男女共同参画社会の実現、および持続可能な地域社会を構築していくための喫緊の課題となっています。

2015 年 12 月 25 日に閣議決定された「第 4 次男女共同参画基本計画」では、自治会・町内会等の地域における多様な政策・方針決定過程への女性の参画拡大を図り、地域活動における男女共同参画の推進が明記されました。本計画の具体的な数値目標として、自治会長に占める女性の割合を 2021 年までに全国平均 10%(2018 年 4 月時点で 5.4%)とすることが掲げられています。さらに、第 4 次男女共同参画基本計画の実現に向けて、重点的に取り組むべき事項を取りまとめた「女性活躍加速のための重点方針 2016」では、地域に根差した組織・団体における意思決定過程への女性の参画拡大に向けて各地域における実態の把握と、女性の参画が進まない要因や課題等への分析を行うことが記されました。このような背景のもと、内閣府は、「地域活動における男女共同参画の推進に関する実践的調査研究」を平成 28 年度より実施してきました。

1-2 前年度までに実施した調査研究の概要

平成 28 年度は、自治会の意思決定の場に女性の参画が進まない要因や課題等を把握・分析するため、全国市区町村に対するアンケート調査と自治会長等へのヒアリング調査を実施し、その結果をもとに、「持続可能な自治会活動に向けた男女共同参画の推進について」をとりまとめ、持続可能な自治会活動に向けて、女性をはじめとする多様な担い手の参加を促進するための施策の方向性を提言しました。

提言 1：意識情勢や具体的な取組に向けた実践的な研修や事例紹介

提言 2：女性リーダーなどの人材の育成

提言 3：女性人材育成プロセスの推進

提言 4：女性参画推進の観点からの自治会業務の見直し

提言 5：市区町村における女性参画目標の設定・総合的な取組

平成 29 年度は、この提言に基づく次のステップとして、自治会や市区町村の関係者を対象とした好事例の収集・情報発信、普及活動を図るためのワークショップの開催と、女性自治会長比率に影響を及ぼす地域特性等に関する統計データの分析、さらにはこれらの研究結果を活用した男女共同参画の観点から自治会運営を行うためのガイドラインを作成しました。

1-3 平成 30 年度調査研究の概要

「女性活躍加速のための重点方針 2018」では、全国で実際に活躍している女性自治会長等が一堂に会し、地域に根差した女性の参画拡大に向けた情報交換や交流を行い、連携を深めるとともに自治会等における取組の好事例を全国へ情報発信することが盛り込まれました。これを受けて、2018 年 11 月 14 日に、地域を越えた女性自治会長同士の横のつながりの構築と、他の地域の取組みを参考とすることによる今後の地域活動の充実を目的とした「女性自治会長情報交換会」を内閣府において開催しました。本情報交換会には、北海道から沖縄まで約 40 名の女性自治会長が参加し、自身が会長職に就いてから工夫して取り組んだ活動の紹介や、女性がより地域活動に関わっていくための方策を話し合う場となりました。



全国から約 40 名の女性自治会長が集合



ワールドカフェ方式による話し合い

さらにこの度、これら全国各地で自治会長として活躍している女性の活動内容を紹介し、好事例の情報発信を目的とする本書「女性自治会長活動事例集」を作成することとしました。

1-4 本事例集の構成

本書は、2 部構成となっています。「2-1 先進的な取り組みを行う女性自治会長へのインタビュー」では、3 名の女性自治会長へのインタビュー内容を掲載しています。「2-2 女性自治会長活動紹介」では、女性自治会長が活動する 36 自治会の活動事例をまとめました。関心の高いテーマから読み進めることも可能なように、活動事例を以下の 3 つのテーマに分けて紹介しています。

テーマ①：多様な住民の参画による地域の活性化

テーマ②：女性の視点を取り入れた取り組み

テーマ③：持続的に女性自治会長が活躍できるような取り組みや周囲のサポート

さらに各テーマには、以下のサブテーマを設け、活動内容別に分類しています。

テーマ ①：多様な住民の参画による地域の活性化

- ①-1 住民が身近な存在と感じる自治会
- ①-2 家族ぐるみでの参加が増加

テーマ ②：女性の視点を取り入れた取り組み

- ②-1 高齢者を元気にする自治会活動
- ②-2 子育て世代の声に寄り添った自治会活動
- ②-3 女性の目線での地域の安全対策

テーマ ③：持続的に女性自治会長が活躍できるような取り組みや周囲のサポート

- ③-1 女性の参加を促す運営面での工夫
- ③-2 家庭・仕事と両立しながらの自治会運営
- ③-3 家族のサポートを得ながらの自治会運営
- ③-4 女性のネットワークなどの協力を得ながらの自治会運営

また、地域によって、町内会など様々な呼び方がありますが、本事例では「自治会」に用語を統一しています。

「自治会紹介」欄における世帯数や役員数等の数値は、取材時（平成 30 年 11 月～31 年 3 月）のものです。

最後に、本事例集の作成にあたり、掲載させていただいた自治会長の皆さまから沢山のご協力を頂きましたことに、深く感謝を申し上げます。また、多くの好事例をご紹介頂きながら、紙幅の関係上、すべてを掲載できなかったことをお詫び申し上げます。全国のそれぞれの地域で、大勢の方が熱意を持って、精力的に取り組んで頂いていることを励みとして、今後とも男女共同参画を推進していきます。

2. 女性自治会長の好事例集

2-1 先進的な取り組みを行う 女性自治会長へのインタビュー

地域の発展は家庭から！ 女性が主役の自治会づくり

山梨県甲府市 あいおい 相生地区柳三会自治会

はなわ あつこ
花輪 敦子さん



自治会紹介

- 全世帯数：35 世帯
- 自治会加入率：35 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：6 人／11 人中（55%）
- 地区の概要：JR 甲府駅から徒歩 10 分圏内に位置し、バス通りやデパートも近隣にあり、生活に適した地域。自治会内に県内有数の柳町大神宮を有する。

Ⅱ 35 世帯全員が仲良く、温かな自治会 が誇り

一どのような経緯で自治会長になりましたか？

次期会長を決める際に、町内会から推薦をいただいたのがきっかけです。山梨県の行政相談員を長く務めていまして、その経験が糧となると思い、自治会長を引き受けることにしました。2011 年に会長職に就き、約 7 年間、柳三会自治会の会長を務めています。

一全 35 世帯と比較的小さな自治会ですが、自治会の雰囲気を教えてください。

甲府駅に近く、山梨県庁や甲府市役所などが並ぶ甲府市中心部の市街地にあります。かつては、甲府商人の間屋街として栄えていた地域で、現在もその歴史を継ぐ家庭があります。しかし、時代とともに、住宅から駐車場やオフィスビルなどへの建て替えが進み、自治会活動に活発な会

員の多くは古くからここに住む高齢の方々という状況になっています。周辺地域に家族や孫が住んでいる方が多く、夏祭りや節分行事などを通じた交流は盛んですが、加入世帯自体に子どもはいません。柳三会自治会の魅力は、地域みんなが本当に優しく、全員の仲が良いことです。規模が小さい分、全員が家族のような、アットホームな雰囲気があります。

ご近所との距離の近さもこの自治会ならではのです。「カーテンが開いていれば元気な証拠」「具合が悪ければ赤いハンカチを窓に出しておいて。助けに行くから」など、冗談も交えながら笑い合い、日々窓から顔を見合っては健康確認もしています。家族のように思いやり、日常的に助け合う温かい地域です。

Ⅱ 女性部の立ち上げと女性役員増加の取り組み

—女性自治会長になられて、女性部を設立されようと思われた経緯を教えてください。

地域の女性みんなで、一緒にどこかへ出かけたいね、というのが女性部設立のきっかけになりました。私たちより上の世代では、食事会や旅行の積立を行う無尽講¹を行っていましたが、それを正式に女性部として設立しました。毎年1回、当番となった3名がバス旅行の企画を担い、旅行先の検討からすべての調整までを担当します。最近では、大河ドラマの題材となった地域の視察や、黒部ダム、松茸食べ放題などに出掛けました。旅行に加えて、毎月行う夕食会も企画し、みんなで楽しんでいます。

女性同士の会話が増え、カレンダーにはいつもイベントの予定が詰まっています。また、多くの家庭で、妻が安心して旅行に出掛けられることを夫も喜んでいきます。妻が元気で活動的でいられることは、より良い家庭づくりにもつながっていると感じます。

—他に自治会で工夫している活動はありますか？

お正月には、近くに住む家族や孫などを交えた新年会を、夏には納涼祭、また時々ささやかな外食をみんなで楽しむなど行事を企画しています。家族ぐるみの交流はもちろんですが、体調の優れない家族がいる家庭や、一人暮らしをされている方の状況などの情報共有も行っています。高齢者世帯が増えてきているので、

救急車がいつでも通行できるよう、路上駐車・駐輪の防止にも協力して取り組んでいます。

また、毎年2月3日の節分には、自治会内にある柳町大神宮で節分祭が行われます。人口の減少を受けて一度は衰退も経験しましたが、地域の人たちが力を合わせ、現在では七夕と並び子どもから大人、お年寄りまで大勢の人が心待ちにする行事となっています。私も女性では唯一、豆まきの儀式を担います。「元気に素敵な一年にしましょうね」と地域の方々から声を掛けて頂けることが何よりの励みです。



大神宮祭で甲府市長と並び参拝客に
福豆を配る花輪さん

—交流の多い自治会ですが、大切にしていることはありますか？

このような機会を通じて、近くに住む人が今どのような課題を抱えているのか、自治会長や役員だけではなく地域のみんなが把握できています。女性部の旅行や食事会などすべての活動で共通しているのは、肩を張らず、みんなで楽しむことです。その結果として、関わり合うことが楽しくて仕方ない、そんな自治会となることを心掛けています。

¹ 金銭の融資を行う相互扶助の組織のこと。

—自治会活動への女性の参画も進めて来られました。その効果をどのように感じていますか？

自治会の運営には、必ず女性を含めることを徹底していて、2 名が選出される副会長職には、1 名は女性となるよう努力しています。その結果、山梨県内でも特に女性役員の数が多い自治会となり、また女性役員の割合は年々増加しています。女性が自治会運営に関わることで、自然と自治会や町内のことが各家庭の話題に上ります。町の在り方や行事への参加のことが家庭の中で話し合われるようになり、町の発展に対する前向きな考え方が自然と芽生えました。また、女性が参加することで、これまで以上に行事が盛り上がることも多くなりました。このような目に見える変化を感じることはとても嬉しいことです。

—次期も自治会長を続けられますか？

私も 80 歳を迎えて、自治会長のお仕事を少しお休みしたいと感じています。次期は、私が声を掛けさせて頂いた男性に会長を務めて頂きますが、副会長にはこれまでどおり女性が就くことに加え、保健委員などの委員に計 5 名程の女性が参加予定です。女性の視点や経験を活かして活躍してくれることを信じています。

Ⅱ 家庭が良くなることは地域が良くなること—女性の参画があってこそその町づくり

—自治会活動への女性参画の意義をどのように考えていますか？ 花輪さんの抱負とともに聞かせてください。

私は、日常生活の中で一番大切なことは、夫婦を基盤とする家庭がしっかりしていることだと思っています。家庭内のことは目に見えにくく、良いこともそう

でないことも色々なことが起こります。それでも、お互いを知り、支え合い助け合う気持ちがなければ、地域は成り立たず、いずれは町そのものが立ち行かなくなると感じています。

女性が町内のことに関心を持ち、まず町内を明るく楽しく盛り上げます。そうすることで、家庭が良くなり、町内が良くなり、市さらには県を良くしていくことにつながると私は思っています。地域のみんなが「山梨に住んで良かった」と思えるような、行き届いた行政が実現されるためには、きめ細やかな考えを持っている女性が参画できる自治会づくりが不可欠です。人生 100 年時代に、魅力あふれる地域の発展と、よき男女共同参画社会の実現のために微力ながら努力したいといつも思っています。

大神宮祭（だいじんみやさい）

甲府市の横近習町大神宮と、柳三会自治会がある柳町大神宮では、毎年 2 月 3 日の節分に春の訪れを告げるお祭り「大神宮祭」が開催されます。大神宮祭は、古くから「大神（だいじん）さん」と呼ばれ地元の人に親しまれ、甲府三大祭の一つにも数えられています。

柳町大神宮での大神宮祭（節分祭）では、「追儼（ついな）式」として鬼払いの儀式と豆まきが行われます。福豆を撒かれて拝殿から逃げた赤鬼・青鬼たちが市内に繰り出し、驚いて泣いてしまう小さな子どもの中、勇敢に立ち向かう子どもたちの姿も見られます。



豆まきから逃げ、市内に繰り出す鬼たち

境内は、夜遅くまで商売繁盛・家内安全などを願うたくさんの人々で賑わいます。

子どもたちから高齢者、 みんなを巻き込んでの地域づくり

福岡県那珂川市 王塚台自治会

やつしろ ゆ み
八代 由美さん



自治会紹介

- 全世帯数：約 993 世帯
- 自治会加入率：約 983 世帯（99%）
- 自治会女性役員数：自治会 3 人／5 人中（60%）、公民館 9 人／14 人中（64%）（公民館長が女性）、民生委員 2 人／3 人中（67%）、まちづくり委員会 12 人／18 人中（67%）
- 地区の概要：1980 年代に開発された住宅地。一戸建てが約 99%を占める地域であり、高齢化率は 38.6%と高い。「気持ちよく暮らせる王塚台」を目指して活動している。

Ⅱ 公民館活動を通して地域に携わり、 自治会長へ

一どのような経緯で自治会長になりましたか？

地域活動の役員を長く務めており、26 年前に子ども会育成会長に就任しました。育成会長時代には、積極的に子ども向けの行事や交流行事を開催し、地域の財産として公民館を活かすことを軸に活動していました。22 年間、公民館の役員を務め、そのうち 3 年間は公民館長として活動しました。公民館長を経験したら自治会長になるという慣例がありましたが、やはり男性が会長を務めた方がいいという声もありました。しかし、「これからの時代は男女共同参画だ！」という前自治会長の声や周りからの後押しもあり、正式に推薦を受けて、選考委員会を経て選任されました。

現在は、市内唯一の女性自治会長として活動しています！

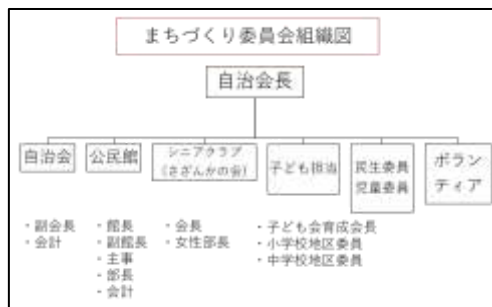
Ⅱ 他自治組織と協働する「まちづくり委員会」

一自治組織「まちづくり委員会」について教えてください。

地域の課題を話し合うには、自治会だけでなく、公民館や民生委員など、幅広い組織を巻き込んで、協働する必要があると思いました。そこで、公民館役員を務めていた 2002 年にまちづくり委員会の発足を提案し、自治会長を説得し始めました。

まちづくり委員会は、自治会長を筆頭に、自治会、公民館、シニアクラブ（さざんかの会）、子ども担当、民生委員・児童委員、ボランティアで構成されています。毎月、定期会合を行い、和気あいあいと冗談も交えつつ、地域活動や地区の学校のスケジュールを共有し、王塚台区内の課題への対応策をみんなで検討します。

まちづくり委員会の活動は主に三つの柱に分かれており、①高齢者向け活動、②地域防災、③子育て支援があります。また、地域のニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、その中から自主防犯活動である「ぶらぶらパトロール」をはじめ多くの活動が生まれています。



まちづくり委員会組織図



約20人が参加する、
まちづくり委員会の定期会合

Ⅱ 子育て支援、子ども向けイベントの充実から、地域で子どもを育てる

―子育て支援が充実していますが、子育て支援を始めたきっかけは何ですか？

育成部が中心となって行う子育て支援活動は、未就学児とその保護者向けの「子育てほっとサロン」と小学生向けの「子ども広場」の2つに分かれています。子育て世代の居場所づくりと子どもの見守りを目的に活動を始めました。

未就学児が少ない地域のため、子育て支援の需要を測りかねていました。しかし、子ども会のお母さんたちにアンケー

トを取った結果、子育てに関する意見交換をできる場所が欲しかったという意見を多くいただきました。同様の子育て支援サロンを行っている地区を見学したり、講習会に参加をしたりして、王塚台区でも居場所づくりとして、子育てほっとサロンを始めることとしました。

―子育てほっとサロンの具体的な取組について教えてください。

始めは集まってお茶をする場所を提供した形でしたが、今では、栄養講座、健康講座などの講座や夏祭り、プチ運動会など様々なイベントを開催しています。親子で楽しめる行事の他に、ママ講座として、裁縫教室での子どものエプロンづくりや、母親のリラックスを目的としたネイルサロン教室を行っています。講習の間はスタッフが子どもたちを見守る事で、お母さんたちに自分のための時間を作ってもらっています。

また、参加者の声から「おさがりマーケット」も始めました。年に2回、無料で、「要らない人が要らないものを持ってきて、欲しい人が持って帰る」場所を提供しています。個人同士での物のやりとりでは、お返しの気遣いをしますが、公民館（自治会）を挟むことで、気兼ねなく、衣類やチャイルドシート、おもちゃなど必要なくなった育児用品を自由にやりとりできるようになっています。



おさがりマーケットの様子

子育てほっとサロンを通して、親同士のネットワークができ、「ほっとする居場所」や相談しやすい環境が作れていると感じています。また、親子での地域行事への参加が増え、子どもが大きくなった後も地域に貢献してくれるため、地域活動が活発になっています。

王塚台区は子育て支援が充実していると地区外でも評判となっており、おさがりマーケットや子育てほっとサロンへの地区外の方の参加も多いです。王塚台区へ引っ越してきたいという他地区の方々の声もよく聞いており、嬉しい限りです。

—子ども広場では具体的にどのような活動を行っていますか。

小学生向け子ども広場では、一年を通して、夏祭りやハロウィン祭り、餅つき大会などの様々な行事を行っています。子ども広場は、小学校が週5日制になった際の受け皿として始まりましたが、今では地域との交流の場づくりや子どもたちの自主性の育成を目的に活動しています。6年生がリーダーとなり企画や進行をし、下級生を含む班ごとで活動を行います。そのため、毎年、次年度の行事を決める際には、次のリーダーとなる5年生の子どもたちに意見を聞き、要望を取り入れるようにしています。

例えば、子どもたちの要望で始まったのが、ハロウィンの仮装イベント（ハロウィン祭り）です。地域の方にハロウィンハウスとして協力してもらい、子どもたちにお菓子を配ってもらいます。今年も100人以上が参加して大いに盛り上がりました。敬老会のイベントで子どもたちからプレゼントをもらう高齢者の方々からは、ハロウィンハウスで子ども

たちへ恩返しができ、嬉しかったとの声を頂いています。

子どもたちにとって大きな思い出となっているのが、市内のダム建設時にダム底へ絵を描いたことです。地域に住む地質に詳しい方にボランティアでダム教室を開催してもらい、同時にキャンプをして、自然を学ぶ機会としました。



「守りたい自然」をテーマとした
ダム底へのお絵描き

子ども広場を通して、高学年と低学年の交流が進み、子どもたちの自主性が大きく育つと同時に、地域への愛着が根付いています。

育成部の行事の一部

<子育てほっとサロン>

- 読み聞かせ
- 段ボール電車づくり
- おさがりマーケット
- 夏祭り（お神輿づくり）
- 爪のお手入れとネイル体験

<子ども広場>

- 歓迎会・お別れ会
- 夏祭り
- ハロウィン祭り
- 餅つき大会
- 体育祭

—子ども広場も自治会会員以外にも開かれているとのことですが、その運営はどのようになっていますか？

子ども広場は、王塚台に住む全ての小学生を対象としています。子どもには子ども同士の関係があるため、自治会に入っているかどうかは関係ありません。そこで運営資金は、自治会から助成する公

民館活動費と社会福祉協議会の助成金により賄っています。

Ⅱ 地域一丸となつての見守りで、誰にとっても住みやすい地域へ

―高齢者向けの活動では、どのような活動を行っていますか？

自治会役員経験のある民生委員の方の意見を取り入れ、福社会や「ふれあい食堂」など、見守りと居場所づくりを目的とした高齢者向けの活動を行っています。福社会では、毎月定例会を開いて、高齢夫婦世帯の見守り報告を共有します。

「ふれあい食堂」は、一人暮らしの方とおおむね 75 歳以上を対象に、地元の食材を使った食事を提供しています。社会福祉協議会と自治会からの補助金、そして参加者の方に会費として 200 円を持参いただき、ボランティアで運営をしています。「美味しいものを食べつつ、美味しいものを作らないと！」ということで、ボランティアで料理のアイディアを求めて研修旅行にも出かけ、住民同士の仲を深めています。

また自治会のシニアクラブ「さざんかの会」は、月に 1 回カラオケやフラダンスを行っています。定期的に市の出前講座などの学習会も開催しています。

―地域での見守り活動や防犯活動に力を入れていらっしゃるのですね。

他にも、自治会と公民館、シニアクラブ、民生委員と住民ボランティアで「ぶらぶらパトロール」を実施しています。住民アンケートでの「空き巣などの犯罪が心配」という声により、週 2 回朝 10 時から地域の見回りをしています。実際に、ぶらぶらパトロールにより、公園

に出現した不審者の発見と逮捕につながったり、倒れた人を助けたりしたこともありました。ぶらぶらパトロールを始めたことで、空き巣が減り、またゴミ拾いも一緒に行ったことで、大通り沿いのゴミやたばこの吸い殻などが減りました。防犯から始まった活動ですが、地域の美化にもつながっています。

Ⅱ 幅広い世代、人々に向けた活動で全ての人が楽しめる地域を

―子育て世代や高齢世代以外にも、幅広い方々を対象として活動を行っていますが、どのような工夫をしていますか？

誰でも楽しめるイベントをつくる工夫をしています。公民館が主催する体育祭では、参加した全ての人が参加賞をもらえます。例えば、車いすの方もパン食い競争をしたり、スリッパ飛ばし等の種目を設け、全ての人が楽しめることを目指しています！

Ⅱ 先進的な取組みで、すべての人が暮らしやすく！

―今後は、どのような活動を検討していますか？

今後は、「買い物に困っている高齢者への送迎サービス」や「災害時の幼稚園の開放」を実現させたいと考えています。斎場の送迎車が空いている時に、それを利用して高齢者の商業施設への買い物支援ができないかと考えています。

また、地域にある幼稚園は施設内に調理室やミルクの備蓄などが揃っています。そのため、災害時に乳幼児連れや妊婦さんの避難所として活用したいと考えていたところ、幼稚園からも協力してもらえることとなりました。この地域は高台にあるため、他地域で水害に巻き込

まれる可能性がある方々も受け入れたいと考えています。

Ⅱ 広報に力をいれて、共に活動する人材の発掘を

ー現在感じる課題は何かありますか？

この地域は坂道が多く、公民館が高台にあるため、高齢者など公民館に来てもらうことが難しい方々へのアプローチです。いろいろな取組みを行っていても、来てもらえないことには始まりません。子ども向けの行事が充実しているのは、全ての子どもたちが子ども広場に参加していて、子どもたち自身が行事や取組みを知っているため、参加者が多いことが理由です。もっと多くの方に活動を知ってもらうために、広報に力を入れたいと考えています。

また、地域と役員の高齢化を課題に感じています。そこで、地域活動を手伝ってくださる方を増やすため、現在サポーター登録制度を立ち上げています。地域の方に様々なイベントの折に、活動に協力してくれるサポーターとなってもらう制度です。行事に参加してもらうだけでなく、「みんなで一緒にやりたい！」と思ってもらえるようにできたらと考えています。そして、これからも活発な地域活動を続けたいと思っています。

ー女性の活躍や参画に向けて何か取り組んでいることはありますか？

地域の方からは、「自治会長も女性、公民館長も女性だと話しやすか」といった声も聞いています。男性が自治会長だった時には、「こんなことで相談してもいいのかな」と遠慮していたことも、すぐに相談してもらえるようになりました。例えば、利用者の要望から、公民館調理室の重い鍋や湯飲みを腰をかがめ

なくても取り出せる良い位置に入れ替えました。また、掃除の際に、床に足について雑巾をかけをする高齢者から「モップを買ってほしい」という声が出るようになり、すぐにモップを購入しました。

行事の度によく参加してくれる方には積極的に声掛けをしています。お仕事をされていた方や自治会活動にこれまで携わってこなかった方なども、新しい視点を持ってきてもらえるため、一緒に自治会運営を考えたいと願っています。

Ⅱ みんなでサポートしあって自治会活動

ーこれから女性自治会長になっていく女性に向けてメッセージをいただけますか？

「自治会活動は一人でするんじゃないよ。みんなでするんだよ」と思っています。自治会も公民館役員や福祉会の皆さんと「チーム王塚台」として、自治会の活動と公民館の活動が分かれていても、お互いに連携してサポート体制を整えつつ、活動をしています。

役員にとっても地域の人にとっても、不安なことがあれば、それを取り除いてあげたい、そのための自治会と思っています。例えば、一戸建てだからこそ、庭木のはみ出しなど、隣の人に直接言うと角がたつこともあります。「自治会に言ってくれば、ワンクッションになるけん、そのための自治会だよ。」と地域の人にはお伝えしています。



公民館長と育成部長と一緒に
チーム王塚台！

解散寸前の自治会を救い、 活発な自治会を実現

栃木県宇都宮市 岡本台ハイツ

かわかみ さちこ
川上 幸子さん



自治会紹介

- 全世帯数：500 世帯
- 自治会加入率：453 世帯（約 90%）
- 自治会女性役員数：2 人／11 人中（約 20%）
- 地区の概要：宇都宮市の北東部に位置している。500 世帯ほどが住む団地に、1977 年に自治会が設立された。当初は、若い世代が多く運動会や盆踊りも活発に行われていたが、自治会内でも高齢化が進んでいる。

Ⅱ 解散寸前の自治会を立て直すために自 治会長に就任

一どのような経緯で自治会長になりましたか？

昔は自治会の執行部役員に女性を選ばないという雰囲気がありましたが、夫の代理で交通防犯部長をやっていたことから、副会長に選任されました。

その当時、団地内の污水处理場の運営管理を自治会が行っていました。宇都宮市と合併前の河内町の時代に、老朽化した状態の下水道を行政へ移管するという重大な問題を抱えていました。前会長が退任する際に、この問題が未解決のままで、次期会長を引き受けてくれる人がおらず、自治会は解散寸前でした。

このような状況の中、「副会長が昇格するしかないのでは」の声で会長職を引き受けました。「女性が失敗するのは当たり前

だから、自治会の解散を避けるためだった」と後で聞き、「女だってやる気になればできる！」と度胸を決めました。下水道移管という大きな問題に直面する不安を感じましたが、移管できないと自治会が潰れてしまうという危機感を持ちながら、皆さんが協力してくださることを条件に引き受け、活動がスタートしました。

当初は、年下の女性会長からの指示に対して男性役員の協力が思うように得られず、泣く泣く「約束と違う！」と訴えたところ、「協力して支えるから」と皆さんが言うてくれて、会長としての仕事がスムーズにできるようになりました。

また、私自身が過去に大病をしたことも自治会長になったきっかけの一つです。それまでは、人のために何かをする、なんて考えもしませんでした。しかし、命が助かり、人のために何かやろうという気持ちが大きくなりました。さらに、企画をするこ

とが好きな性格だったので、活動をしているうちにだんだん元気になり、やりがいも感じてきました。

結果、会長として 2007 年から 2016 年までの 10 年間、役員の皆さんの協力により会長職を務めました。

下水道の行政への移管に成功した経緯を教えてください。

下水道を移管する際は、色々な問題があり、中でも団地と下水道を開発した会社とは関係が悪化しており、同じテーブルにつくこともできない状況でした。

まず、下水道移管に対する住民の 100% の同意を得ることから始めました。そのために執行部会を毎週開催し、綿密な打ち合わせをしました。役員会では重要事項を一つずつ決定して、問題を解決してきました。何十回と行った施設管理会には、管理費の収支をはじめとして全ての情報を詳細に記載した資料を作成し、報告するようにしました。

また、関係者との話し合いにも苦労しましたが、話し合いを進める中で、徐々に関係が改善し、最終的には協力を得ることができました。さらに、管理費を滞納している利用者には、管理費請求のため、何度も訪問しました。このようにコミュニケーションを密にとりながら、色々なトラブルに対処できるのは、女性の自治会長ならではだと思います。

行政とも密に関係性を築きました。下水道管理課には、幾度も相談にいき移管のために自治会がすべきことを聞きながら、進めました。マンホールの修繕等を業者をお願いし、役員みんなで下水管のカメラ調査と修理をし、各家庭の宅内マスの調査などをしました。汚水処理場の汚泥を抜き、解

体、更地にして開発業者に戻しました。約 550 個の宅内マスの場所を探して写真をとる作業には苦労しました。

最終的に、老朽化した汚水処理場を解体し、下水道を市に移管するのに約 4 年かかり、精神的にも肉体的にも大変な年月を過ごしました。住民の皆さんに感謝されたことで、苦労が報われました。移管が終わった約 1 年後に東日本大震災が発生しました。老朽化した汚水処理場をそのまま使用していたら、汚水処理場が倒壊して、汚水がそのまま川に流れてしまう事態になっていたでしょう。大変だったけど、下水道移管をやってよかったと思いました。



インタビュー時の川上さん

|| 地域の環境に目を向け、住みやすい地域に

自治会の活動を教えてください。

花が好きなので、公園の周りを花でいっぱいにしたら、皆さんが公園に愛着を持ち心癒される空間になるのではないかと思います。「美しい環境づくり」を始めました。当自治会は、昔から自分たちの公園は自分たちでキレイにすることが恒例の行事だったので、約 200 名の皆さんと 2 つの大きな公園の除草を年に 4 回実施しました。その他にも、各区毎に交代でごみ拾いを実施しています。ごみ拾いや除草などの清掃作業が対象となる市の補助金を活用して、公

園愛護会で花や掃除用具などを購入したり、参加者の飲み物代に充てるなどして環境美化に努めております。また、「美しい環境づくり」は、犯罪防止の効果もあるということで、市有地を借りて花壇にしました。

高齢化により、少しずつ参加人数は減っており、10年後には、80歳代の方も多くなるため、何か対策を考える過渡期にきています。



美しい環境づくり「花いっぱい運動」



公園の除草作業

Ⅱ 市や社会福祉協議会及び地域包括支援センターと連携し、高齢者対象の活動を充実に

—高齢者対象にした活動について教えてください。

自治会に75歳以上の方が約200人、それに対して小学生が約50人と、少子高齢化に対応するための活動がとても重要な時期を迎えています。

2012年から地域包括支援センターの支援を希望し、運動、栄養、口腔、認知症予防等について学ぶ介護予防教室である「はつらつ教室」（現在は名称を変更し「にこにこクラブ」）を開設しました。いつまでも元気で過ごせるよう、体操やレクリエーションを行い65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない高齢者を対象に月に1回開催しています。さらに、2014年からは、体操、健康麻雀、手芸、将棋、卓球などを行う「いきいきサロン」、気功、カラオケなどを行う「わいわいサロン」の2つを開設しました。また、宇都宮市社会福祉協議会が進めている、お茶会やレクリエーションをする「ふれあい・いきいきサロン事業」、市の推進する健康増進活動を行うことで、市の様々なサービスを受けられる「高齢者等地域活動支援ポイント事業」に積極的に参加し活動しています。

Ⅱ 会員の親睦を深めるために様々なイベントを開催

—地域の交流を促進するために、どのように取り組まれましたか？

会員同士の親睦を図るために、ボーリング大会、料理教室、バス旅行、パソコン教室など様々なイベントを開催しました。バス旅行は、年1回県内外に下見をして、自分たちで計画を立てて実施してきました。長年、イベントをやっていると、新しく引っ越して来た方が参加しづらく、交流が図れないなどの新たな課題も見えてきました。また、次世代を担う子どもたちの思い出づくりとして、三世代交流の場である「ふれあい広場」の夏祭りを開催してきました。元々は、子ども会、老人会（ゆうゆうクラブ）でそれぞれお祭りをしていましたが、自治会と一緒に実施した方が、多くの方の参加が得られ、模擬店などもでき、

盛大なお祭りになるので合同で開催することになりました。

これらのイベントは、回を重ねるごとに、絆が深まっていると感じます。イベントは、役員にとっては負担がかかることですが、終わってみると楽しかったという声が聞かれました。大変な準備をすればするほど、他の方に喜ばれることを実感しています。また、子どもたちの夏祭り等の思い出が、大人になった時に心の糧になり、次世代につながっていくことを願っています。



料理教室（餃子づくり）



バス旅行

|| 多様な住民の活躍を促進するためのきっかけ作り

—今後、自治会にたくさんの人を巻き込むために取り組まれていることはありますか？

当自治会は、立候補制度で役員を決めています。新たな人を自治会に巻き込むために、副会長や各部長は推薦などで決める

ようにしています。副会長や各部長は1年間やることで、自治会について理解することができ、自治会活動に興味を持つ機会となります。それにより1年の任期が終わった後も、何年も続けてくださる方もいました。色々な方に自治会に携わってもらい、新たな人が入ることにより自治会運営の活性化になると考えています。

また、自治会長になるための人材育成講座を行政と連合自治会などで設けてもらい、女性の活躍を共同で推進することも一つの方法だと思います。自治会長になってからは、忙しいので、活動を始める前に、自治会のあり方などを勉強しておく、自治会長になってから活動しやすいと思います。

|| 開かれた自治会を作る

—自治会を運営するために重要なことは何ですか？

自治会活動の透明化を図り、自治会員の参加型、すなわち開かれた自治会運営をすると良いのではないかと思います。会計帳簿の閲覧や役員会なども傍聴することで、自治会運営が「見える化」し、会員から多くの理解と支援、協力を得ることができると思います。また、リーダーは、自分自身の考えを持って行動することも必要ですが、常に学ぶ姿勢も持ち続け、多くの人から意見やアドバイスをもらい協議していくことが必要です。

私は地域活動をするにあたり、自分が住み続けたい地域の理想を描き、5年後、10年後がどうなっているか想像することが大切だと思っています。将来の理想を頭の中で描くことによって、何をすべきか考えることができ、自分なりのビジョンを持つことができます。ビジョンがある人は、

揺るぎない意見が言えると思います。また、自治会活動は、一人ではできないので、同じ夢と熱意ある仲間づくりも大切です。男性と女性が、ビジョンを共有する仲間として、協力し合い共に築いていくことが重要です。

Ⅱ 女性の力で全国の自治会をより良くする

―これから女性自治会長になっていく女性に向けてメッセージをいただけますか？

自治会役員の中に女性が「いる」と「いない」では大きく雰囲気が変わります。女性目線の意見により会議がより活性化するほか、女性の意見が様々な場面で反映されることは、暮らしやすい社会のためになると思っています。私の経験では、コミュニケーション能力が高く、意見をうまくまとめる能力がある方が多いと感じています。さらに、女性は本質的なやさしさや気配りなど、相手の立場を思いやる気持ちを持ち合わせているので、「絆で結ぶ楽しさ溢れる自治会づくり」ができると思います。もちろん、力強いサポートが無くては組織が動かせないので、男性の協力も不可欠です。

是非、男性中心である自治会から、女性らしさを活かした自治会を増やすために、勇気をだして、まずは役員になり、次に自治会長になり、アクションを起こしてください。

2-2 女性自治会長の活動紹介

事例
1

子どもから大人まで 郷土愛をもつ地域づくり

山口県防府市 ^{こくが}国衙町内会

自治会紹介

- 全世帯数：1350 世帯
- 自治会加入率：1000 世帯（74%）
- 自治会女性役員数：3 人／18 人中（17%）
- 地区の概要：田畑から住宅地へと変容した地域。町内には 57 年目となるどんど焼きを行う国庁跡等の史跡や、住民寄贈の桜の木と住民の憩いの場を有する。



防府市

山口県

自治会長になったきっかけ

以前から、自民党の女性部で局長をしており、女性の活躍が謳われていたこともあって、前自治会長に声をかけられて承諾しました。それまでは、自治会長に女性がいませんでしたが、女性が輝くためには指導的地位に女性が就くべきということに賛同したことと夫が 20 年間自治会長を務めた経験もあり、会長の具体的な役割や活動内容を把握していたため、引き受けました。

子どもから大人まで、すべての人を巻き込んだ自治会活動

Ⅱ 地域全員を巻き込み、お互いを知り、助け合う自治会の創成

町内の人たちと協力して、地域で子どもや高齢者などの幅広い世代を巻き込んだ、親しみやすい自治会を作っています。一年を通して子どもから高齢者までを対象にした行事を実施し、すべての人が楽しむことができるよう努めています。例えば、地域の運動会では、足腰の不自由な高齢者でも楽しめる種目を考え、多くの人が参加できる工夫をしています。

また、会長としても日ごろからできるだけ町内を歩いて声掛けを行っています。単身世帯の人も多く、住民同士での声掛けを推奨したことで、行事の参加者が増加し、何かがあると若いお母さんでも「会長さん！」と飛んできてくれるようになりました。世帯数が多い自治会ですが、お互いが顔見知りで、寄り合いなどにもよく参加し、交流を深めることができていると思います。

|| 毎年 500 人が集まるどんと焼きで地域への愛着を

毎年年始には町内にある史跡で、市内で一番歴史があり、今年で 57 回目となるどんと焼きを行っています。地域の子どもたちが司会進行を務め、市長や教育委員会、小中学校の校長先生も集まり、地域の伝統と文化と一緒に継承していきます。また、どんと焼きの際には、子ども会と女性部が中心となって、参加者へぜんざいを振る舞います。同時に参加者に防災意識を高めてもらうため、保存食のアルファ化米でおにぎりを作るデモンストレーションを行い、災害時の実践的なノウハウを集まった人々へと広めています。

|| 町内を巻き込み、子どもたちの夏の思い出づくり

夏休みを利用して、週 1 回町内で寺子屋教室を開催しています。町内の退職された方や中学生のボランティアと一緒に、子どもたちの勉強を見守ります。勉強の後は、社会福祉協議会と連携して招へいした講師の講演を聞いたり、町内の中学生と先生による化学実験や藍染め体験、バルーンアート教室を行ったりと、子どもたちの興味を広げていきます。子どもたちには昼食代として 100 円を持参してもらい、町内の女性部・福祉部の協力を得て、昼食を提供します。地域住民からも野菜や果物などの寄付を多くいただき、地域で子どもを育てています。子どもたちも大変喜び、多くの共働きの保護者からも高い評判を得ています。

また、夏休みには有志によるラジオ体操のほか、地域の盆踊り大会もあります。寺子屋から始まり、ラジオ体操に参加する子どもたちや大人の参加者も増加しました。地域全体で子どもたちを見守り、育てることで、愛着のある地域を創っています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

男性・女性と区別をする必要はないと考えていますが、女性の住民にとっては、女性の会長のほうが行事などに参加しやすいという風潮があります。私が会長になったことで、女性の自治会活動への参加や役員への選出が増えました。女性の参加が増えたことで、雰囲気は柔らかくなり、だれでも参加しやすくなったのではないかと思います。女性が参画すると、男性も協力的になり、より活発な自治会活動が望めると感じています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

女性だからと気にすることはなく、役員や地域の皆様と一緒に協力し合って活躍すべきと思っています。男女が一緒に取り組み、お互いに補い合って、助け合ってこそ、楽しい自治会活動が実現できると思います。私も、明るく暮らしやすい町内会の実現に向けて、これからも頑張りたいと思っています！

事例
2

「手料理」でつなぐ住民の輪

大分県別府市 船小路自治会

自治会紹介

- 全世帯数：250 世帯
- 自治会加入率：190 世帯（76%）
- 自治会女性役員数：7 人／9 人中（78%）
- 地区の概要：今年で 76 年目を迎える自治会であり、戸建住まいの古くからの住民が多い地域。近隣に定期フェリーや観光客船の寄港する国際観光港があり、観光港広場での水産加工物祭りが有名。



大分県

自治会長になったきっかけ

前会長が亡くなられ、副会長、体育部長、また公民館長の推薦を受け、自治会長となりました。別府市に 145 町ある町内会のうち、女性の会長は一人もいなかったため、やってみたら面白いのではないかと思います、引き受けました。現在会長を務めて 17 年目になります。

調理師免許を活かしたコミュニティづくり

Ⅱ 自治会長の手料理でつくる地域コミュニティ

温かい食事を囲むことで人々の交流が促進すると考えています。60 歳を過ぎた頃に調理師免許を取得したこと、そして自宅が喫茶店を営んでいることから、自治会長になってからは、自宅の喫茶店を利用して大鍋で料理を作っては、地域の住民や班長の方々にふるまっています。特に町内の高齢の一人暮らしの方に積極的に声をかけるようにしており、一人暮らしの高齢者のコミュニティやつながりづくりを目指しています。昔から食べ物のあるところに人は来ると言いますが、全くその通りで、料理をふるまうことで、地域の方々が多く集まるようになり、交流やつながりが生まれ、お互いに見守りができていると思います。

Ⅱ 女性自治会員の参加の増加

私が自治会長になってから、女性の方々が気軽に話ができるようになったという声を聞いています。それに伴い、女性たちが自治会活動に参加するようになりました。自治会の婦人部の活動も活発になり、婦人部が町内の日帰りバス旅行や、もちつき大会、盆踊りなどを企画から運営まで行っています。特に、バス旅行は年に 2 回開催しています。夫婦での参加も多く、去年は 25 名程度参加し、地域住民同士の交流を深めました。

災害時の地域内での助け合い

Ⅱ 災害時に外国人などの多様な人々の支援を実現

大分県は地震の多い土地柄であり、また船小路自治会は海に隣接した自治会であるため、防災に力を入れています。特に夜間の火の用心の見回りや、津波の避難訓練などを行い地域の防災意識の向上に努めています。災害時には、避難場所となる地区の小学校に、近隣の大学から外国人留学生が多く避難してきます。自治会ではカレーの炊き出しを行う他、地震に不慣れな外国人が安心できるようにお菓子を手渡したり、毛布などの生活用品を配布したりします。日本語が不自由かつ災害への備えが十分でない外国人を気遣い、地域から災害と多様性に対応することを実践しています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が自治会長になったことで、会員の方々が気軽に話しかけられるようになり、交流が増えたと感じています。特に地震の際の自治会長の情報交換等が促進したと思います。女性が得意とするコミュニケーションが多様性への対応や、地域の助け合いの力となっています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

会長を 17 年続けることができたのは、自治会の皆様のご協力があったからだと思っており、皆様には感謝をしております。また、女性が自治会長を続けていくには、活動への協力もさながら、送迎の協力や家を空けることへの了解など、様々な場面において、家族のサポートが必須だと感じています。そうした家族も含めての環境づくりが大切です。

これから若い世代の会長が出てくることを期待しています。

事例
3

地域力の創生により、 女性も男性も活躍する地域を

宮崎県宮崎市 希望ヶ丘東自治会

自治会紹介

- 全世帯数：38 世帯
- 自治会加入率：38 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：5 人／6 人中（83%）
- 地区の概要：宮崎空港の南西、日向灘を望む住宅地に位置しており、1975 年に発足した自治会。



自治会長になったきっかけ

2 年ごとの輪番制で自治会長を担当していましたが、高齢化が進む地域ができてきたことで班編成を変更しました。その結果、順番により会長職を受け持つこととなりました。もともと地域活動に携わっており自治会長の役割を分かっていたこと、そして地域の防災対策を強化したいという思いから、前自治会長である夫から引き継いで、現在自治会長を務めています。

住民同士の力を出し合い、地域力を創生

Ⅱ 実践に即した防災対策・意識改革と地域力の創生

阪神淡路大震災を経験し、地域の生存率や復興率の高さは地域力の高さであると考えました。南海トラフ大地震など大災害が起こった際、自治会で助け合う必要があると考え、防災に注力しています。防災士の資格を持つ私が講師となり、実際に地震が来たらどう動くかという、講座を開催しました。

また、自治会発足当時のままとなっていた自治会員名簿を、防災の視点を取り入れて改訂しました。大きな工夫点は、住民の持つ資格や職業の記載と家族欄へのペットの記載です。そうすることで、災害時に地域住民が看護師や建設業等の資格や知識を活かして、助け合いができると考えました。来たる大災害に備えて、緩やかなコミュニティを築きながら、安心安全な自治会を目指しています。

Ⅱ 世代間交流の復活による地域への関心の促進

自治会の発足当時は働き世代が多く、様々な行事を行っていましたが、自治会会員の高齢化により行事が減少しました。そこで、地域住民からの声を受け、子どもたちが火の用心の夜回りをし、大人がぜんざいを作って皆で食べるという行事を復活させました。

地域住民からも多くの差し入れをいただき、子どもたちは地域を知り、愛着とつながりを感じられたイベントとなりました。また、親世代からも懐かしいといった声や、横のつながりができたのでこれからも継続してほしいと嬉しいご意見がありました。

女性の自治会活動への参画を可視化

Ⅱ 顔の見える関係づくり

自治会発足後、初の女性自治会長かつ年齢が若い事で、会員の信頼を得るのに時間がかかりました。必ず顔を合わせて、顔の見える関係を築くことを心掛け、相談ごとには一緒に考え、迅速に対応する事を徹底した結果、今では、「何かあったら会長に相談しよう」と言ってもらえる関係が築けてきました。実際に、生活に密着した女性の会長ということで、些細なことでも話しやすかったと聞いています。

Ⅱ 世帯主だけを記載した役員名簿を改訂

現在、自治会の役員のほとんどが女性です。私が自治会長になるまで、役員の名前は男性の世帯主の名前となっていました。実務は妻である女性たちが役割を担っていました。このままでは、男女共同参画の視点からも問題と考え、役員名簿における世帯主登録を廃止しました。その結果、女性の活躍が目に見えるようになり、役員になった女性たちが責任をもって任務を全うできるようになりました。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

私は市の男女共同参画社会づくり推進審議会委員も務めていますが、その中でも自治会活動への男女共同参画の議論が進められています。意思決定の場に女性が入ることは地域にとって非常に有益です。

自治会でも、女性が参画しやすいよう、男性の役割、女性の役割と区別せず、できる事をできる人が行うというスタンスをとっています。それにより、女性が入りやすくなり、男性も無理なく女性との協働を進められると考えています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長として活動し実践する中で、行政機関に生の声が届けられること、課題の調査研究ができること、そして「女性だからこそできる」ことを伝えられることができ、会長を務めて良かったと感じています。

女性が会長になるには勇気がいります。しかし、一歩踏み出せば、女性ならではの視点や、女性だからできることも多くあり、活動の中で見えてくる景色があります。ぜひ一緒にこの景色を見てほしいです。仲間は大勢います！

事例
4

「自治会は一つのファミリー」を 標語に、支え合う地域の実現

千葉県千葉市稲毛区 宮園自治会

自治会紹介

- 全世帯数：323 世帯
- 自治会加入率：320 世帯（99%）
- 自治会女性役員数：11 人／28 人中（40%）
- 地区の概要：1972 年に戸建ての住宅ができた地域。当時はバス通りに通じる大きな道路があったが、現在は静観な住宅街。



自治会長になったきっかけ

PTA 会長より当番で自治会長を引き受けました。一年のつもりで始めましたがつい長くなってしまい、35 年程、会長を務めました。昨年、高齢を理由に会長を退任しましたが、現在も自主防災会長として地域の防災に取り組んでおり、新任の会長のサポートや情報発信を行っています。

「ファミリー」として助け合う地域づくり

Ⅱ「自治会はファミリー」という掛け声から誰でも助け合う地域に

私が自治会長になってから、地域の方々には「自治会是一个のファミリー、宮園ファミリーだよ」と声掛けをし、地域への関心と貢献を促してきました。特に、毎日班ごとに持ち回りで実施する防犯パトロールを強化しました。ただ、勤めている人も多くいるため、各々ができる時間に無理のない範囲で行ってもらっています。住民の方からは、特に苦情もなく、「防犯担当の人を見かけるとほっとする」といった声を聞いている。その他、ウォーキングを兼ねた、自主的な夜間特別パトロールなども生まれ、地域の空き巣防止や犯罪対策となっています。住人が地域の生活環境を良くすることで、郷土愛が生まれ、住民自身も住みやすい地域になると考えています。

Ⅱ 女性ボランティア「はなみずきの会」による地域の見守り

自治会の中からボランティアを募り、「はなみずきの会」という自助組織を発足しました。この会では、自治会の行事を手伝うだけでなく、一人暮らしの高齢者と子どもの見守りを注力的に行い、孤独死や虐待、DV などが起きないように注意をしています。必ず 1 名セーフティ・ウォッチャー（見守り員）を選出し、小学校の登下校時や近隣の公園で子どもが遊ぶ際に安全を見守っています。実際に、大雪の日に道で倒れた高齢者を早期発見でき、救急車を呼ぶことで一命をとりとめることができました。はなみずきの

会は、自治会運営の人手不足を補うだけでなく、安心安全な地域づくりに貢献しています。

住民全体で一丸となって、防災への関心を促進

Ⅱ 祭りと融合し、地域で手作りの自主防災活動の発足

以前は、地域で盆踊りを開催していましたが、子どもが減ったことで地域のお祭りが無くなってしまいました。また老人会と敬老会が解散したことで、それに代わる行事を企画したいと思い、「防災宮園サンマ祭り」を開始しました。民生委員を行っていた際に、地域の方から聞いた「昔よく食べた七輪で焼いたサンマを食べたい」という話をヒントに企画を行いました。男性たちにかまどを作ってもらい、地元の居酒屋から安く材料を仕入れ、公園で300匹のサンマを焼きました。また、防災訓練の一環として、炊き出しを行い、皆で豚汁とおにぎりを作り、参加者にふるまうことで地域住民の防災意識の向上に努めています。17年目の今では住民の7割が参加する一大イベントとなりました。

Ⅱ 地域の小学校と連携した、防災訓練の実施

10月に行う防災宮園サンマ祭りの他、5月には小学校での避難生活を想定した防災訓練を実施しています。自治会内にある小学校に協力をもらい、5つの町内会が連携して企画と運営をしています。地域の大人たちが小学校に宿泊し、体育館の開閉方法や電気の使用量を確認し、非常食の点検を行います。去年は小学校の教頭も参加し、地域と学校とが連携して、防災を考える良い機会となりました。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

私自身は、自治会長の性別をあまり意識していませんでしたが、女性ならできる事、男性ならできる事をお互い称え合っていくことが重要と考えています。

未だに地域活動においては、男性が多いことは事実ですので、女性が参画するにあたり、女性たちが自信をつけることが重要だと思います。また、女性だけの情報交換会の意義は大きく、経験を共有し学習する機会が必要と考えています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

「人のためは自分のため、自分のためは人のため」というビジョンをもって活動してきました。まだまだやり残したことが多くあるので、これからもこのビジョンを役員と一緒に実現していきたいと思っています。

自治会活動は一人がしっかりしていても回りません。みなで協力して行う必要があります。自治会長になってよかったことに、1人1人の皆さんとふれあい、人格が磨かれてきたことだと会員の皆さんに伝えています。何事も一つの目標や「こうしたい!」という思いをもって、できる事をムラなく忍耐強く一生懸命に取り組めば、やがて花が咲いた時には、何事にも代えがたい喜びになると思います。これからも頑張りたいと思います。

事例
5

地域みんなの声で作り上げる自治会活動

沖縄県竹富町 ふなうき 船浮公民館

自治会紹介

- 全世帯数：25 世帯
- 自治会加入率：25 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：4 人／7 人中（約 57%）
- 地区の概要：西表島西部、美しいイダの浜の近くにある船浮地区。豊年祭、節祭などの伝統行事も多く残る。主要交通手段は船。



自治会長になったきっかけ

現在、2 期目を務めています。1 期目は前会長からの依頼と、やってみたいという自分の意思で就任しました。長年、学校に勤務していたので、自治会の活動に関わりたくても時間を取れない時も多く、協力できずに歯がゆい思いがありました。退職を機に、今後は自治会活動に積極的に加わりたいと立候補しました。2 期目は、住民皆さんからの温かい応援の声を掛けてもらい、自ら進んで引き受けました。

住民みんなの声を大事に、安心して暮らせる地域づくり

Ⅱ 子どもも大人も高齢者も、住民みんなの声を集める

全員が顔見知りという小さな集落なので、住民みんなの声を聴いて安心して暮らすことのできる地域になるよう心がけています。高齢者の世帯には庭木の剪定や掃除を手伝ってあげたり、近所の方とお土産や食事を分け合ったりと毎日のように交流があります。特別なことはなくても自宅を訪問して話し相手になったり、電話で連絡を取り合ったりと日頃から顔の見える関係づくりを大切にしています。

また、自治会役員だけでは人手が足りないこともあり、行事の多くは学校と密に連携し合って開催しています。私自身が学校に長年勤務していた経験も活かし、運動会から授業参観、絵本の読み聞かせまで声が掛ければどんな活動にも駆けつけて、地域の子どものための教育に積極的に関わっています。自治会役員、学校はもちろん、地域のお年寄りや子どもたち、老若男女問わず、各機関との連携を強めることで地域の要望に応えることができています。その他、月 1 回の役員会では、伝統行事やイベントの準備、集落

内の道路、側溝、排水溝などの安全点検・修繕などを行っています。海がすぐ近くなので、海水浴客に対する安全の呼びかけなども日常的にしています。

女性の参画と離島であることの難しさ

Ⅱ 気軽に意見できる自治会づくり

2017 年まで自治会役員は男性だけでしたが、2018 年に私が初めての女性自治会長となったことで、役員の男女比にも変化が生まれました。日頃のお付き合いも味方になって、役員に手を挙げてくれる女性が多くなり、それを男性も歓迎したことで女性やお年寄りの方が気軽に意見しやすい雰囲気になりました。

Ⅱ 自治会の特徴ならではの心配ごと

船浮自治会は陸の孤島とも呼ばれ、会合の際には石垣島まで船で渡ることになります。移動は一日掛かりで、会議時間によっては石垣島に宿泊せざるを得ない場合もあります。私自身は育児と介護を終えた立場にありますが、このような立地上、家事、育児、介護そして自分の仕事を持つ女性が自治会活動に参画するには、少しハードルが高いのが実情です。船浮地区は観光業が盛んなこともあり、民宿を営んでいる家庭も多く、特に繁忙期の夏に長い時間自宅を離れることは難しくなります。こういった制約は、女性により強く影響しやすいとも感じています。働き盛りの 40 代がひと段落つき、この地域の次のリーダーを背負える時まで、私がこの地域を見守っていきたいと思っています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性の参画により、例えば「力仕事は男性のもの」など性別によって固定的だった習慣が見直され、男性も女性もより活躍できるようになりました。

また、女性役員が増えたことで女性ならではの細やかな気配りが活かされ、これまでと違った視点からの意見を取り入れることができています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

「自治会長をやってみたい」という気持ちが少しでもあったら、ぜひ手を挙げてみて欲しいです。一人ですべてを背負う必要も、完璧を目指す必要も全くありません。私自身も、時に家族や周りの人に頼って、助けたり助けられたりしながら続けていくことで得たものが沢山あります。

私は、次の役員に手を挙げる方が出てくるまで自治会長を続けて、もっともっと船浮地区に貢献したいと思っています。

事例
6

幅広い年代で作る女性部研修会

北海道北斗市 北斗市町会連合会女性部

自治会紹介

- 全世帯数：約 14,504 世帯
- 自治会加入率：86 単位町内会
- 自治会女性役員数：町会連合会女性部 13 人
- 地区の概要：北斗市は 2006 年、上磯町と大野町との合併により誕生。自主性の尊重と自治意識の向上、住みやすい生活環境の推進と福祉の向上を目的として活動。



自治会長になったきっかけ

合併前の旧上磯町時代に、単位町内会には女性部があり女性活躍の場となっていました。しかしながら、町会連合会には組織としての女性部がなく、初代部長になってくれる人が欲しいという声を受けて、女性部会立ち上げに関わりました。正式な組織として町会連合会の中でも女性の活動を促すため、また各町内会の共通理解を求めるために、町内をすべて回って説明会を開き、地域の皆さんの協力を得て女性部が設立されました。

北斗市となった現在も、86 単位の町会からなる連合会に 7 つある部会のうちのひとつ「女性部」の部長として、他機関との連携を図りつつ女性の目線から様々な活動を展開しています。

女性目線のアイデアで、幅広い年代層が参加

Ⅱ 女性部での様々な活動—社会状況に合わせた研修会

女性部では、毎年欠かさず研修会を実施しています。研修の内容は、市役所環境衛生課からの協力を受けて開催したごみの分別・減量・リサイクルなど、日々の暮らしに寄り添ったものから、災害時の非常食の調理方法、応急処置、特殊詐欺対策講座まで、地域生活の中での不安や社会状況にも柔軟に応える企画としています。万一の災害に備えた研修は、地域の関心度も高く外国米の美味しい炊き方、地元の海産物・農産物を工夫した食事・保存食などを実際に作って、とても賑わいました。これらすべての企画立案・

運営、外部講師の招へいまでを女性部が担い、幅広い年代層から毎回約 150 人が参加しています。

また、多くの人で賑わう北斗市夏まつりでは、山車列車の先頭で女性部が踊りを披露するのが恒例となって親しまれています。

若い女性の育成と、男女が助け合い支え合う社会に向けて

Ⅱ 若い女性の後継者育成に向けて

旧上磯町時代に連合会女性部を立ち上げてから、25 年間女性部の部長を務めてきました。その経験から、次の世代に続いていく活動でなければならないと強く実感しています。女性部の活動と並行して、現在は後継者の育成にも力を入れています。若い女性に積極的に声を掛け、女性部の代表候補として育てられるよう熱くアタックしています。

Ⅱ 男女共同参画推進員としての経験も活かして

一方で、男女共同参画推進員も務めてきた経験から、女性だけでやっていてよいものなのか疑問もあります。過去には、女性部の活動に男性を巻き込んだこともありますが、男性目線ではどうしても参加しづらく、長く関わってもらうことができませんでした。活動の最初から、男性をどう巻き込んでいくかが最近の課題となっています。

男女共同参画の仕事は、目に見えにくいと思っています。女性部で行う研修や講演など、形としてはありますが、人々の中に確かに浸透していくことを本来は目指しています。研修を通じて、全人口に対して男女共同参画の浸透が叶えられているのか、私自身もまだ答えが見つかりません。それでも、男女が気軽にアイデアを出し合い、助け合って築き合っていく社会になるために、私自身も諦めずに努力していきたいと思っています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性の目線から自分たちにしかできないことを見出し、実践することで安心、安全な地域づくりが叶えられると思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

今後は後継者の育成も並行して考えながら、女性部活動のさらなる活性化を図っていきます。また、男女が助け合い、思いやりをもって作り上げていく社会になるよう、努力していきたいと思っています。

事例
7

メールを活用して、 住民が参加しやすい自治会に

京都府長岡京市 八条が丘自治会

自治会紹介

- 全世帯数：452 世帯
- 自治会加入率：300 世帯（66%）
- 自治会女性役員数：11 人／19 人中（58%）
- 地区の概要：市の観光名所や公共文化施設や学校などのある文化ゾーンに位置し、3～5 階建てのマンションが 18 棟建ち並ぶ団地を中心とした自治会。



自治会長になったきっかけ

前自治会長と自治会の顧問から頼まれたことがきっかけです。今も働いているため、引き受けるか悩みましたが、仕事としても地域を知る必要があると考えて、快く引き受けました。

先進的な取り組みで自治会活動を円滑に

Ⅱ Eメールを用いて、幅広い地域住民への魅力ある地域情報を発信

地域住民の自治会離れが目立つ中、自治会の運営が困難になりつつあります。そこで私たちの自治会では、毎月発行する自治会だよりに、必要な情報と共に「お楽しみ情報」を入れて、会員以外にも配布しています。会員以外にも自治会の情報や行事の案内に目を通してもらうことで、自治会への入会のきっかけを提供しています。

自治会だよりの発信方法は紙媒体による毎戸配布のみでなく、Eメールでの配信も導入しており、マンション住まいの方、働いている方や若い世代など多くの方に届くように工夫しています。Eメール配信によりカラーでの配信とスマートフォンでの閲覧が可能となり、住民の方からは「おたより配信を楽しみにしています」といった声もいただいています。スマホで手軽に見ることができる自治会だよりが、住民同士のコミュニケーションのきっかけにもなっています。メールで住民の方から相談や要望、アイディアをいただくこともあり、会員の自治会への参加がしやすくなったと感じています。

|| 地域での積極的な情報交換を促進

地域と自治会との綿密な情報交換を大切にしています。月に一度定例役員会を開き、直近行事の確認や役割分担、市や小・中学校、警察、そして自治会長会からの連絡事項や災害時の確認等を行い、その情報を住民の皆さんと共有します。また地域に存在する様々な機関や組織と連携し、地域づくりを行っています。例えば、市の防犯指導員と交通政策指導員を招いて、防犯・交通事故対策講座を開催しました。また、高齢化対策として、福祉用具を紹介する講習会を実施しました。必要な時になってから知るのではなく、住民が事前に知識を持つことで、慌てずに適切な対応がとれるようにと思い、企画を行っています。このような自治会の行事を通して、町内で福祉や医療に関係する方々を発掘する機会にでき、地域から助け合えたらと考えています。

|| 相談ごとの増加と生活改善

女性が自治会長になったことで、今までにない相談を受けるようになりました。例えば、50%を超える自治会加入世帯の高齢化率もあり、住みやすい地域にするため、マンションへのエレベーターの導入希望の声などがありました。こういった生活に密着した視点からの生活改善の声が聴けるようになったと思います。自治会員の声を積極的に聞いていくことが重要であると同時に、住民の中にはマンション特有の干渉しない距離感を好んで入居された方も多いです。そこで、住民にとって心地よい距離感を維持しつつ、自治会運営の意義が認識できる活動と地域への貢献が必要だと考えます。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性目線が取り入れられた自治会運営は、配慮が行き届きやすくなり、女性が自治会活動に参加するハードルが低くなるように思います。

女性が参加することは、その家族、特に次世代を担う子どもたちが地域を大事にする心を育むことにもつながると考えられるため、自治会への参加意識そのものが世帯の中で高まると思います



これから続く女性自治会長へのメッセージ

前自治会長が「自治会活動をして役員と知り合いになれたのが財産」と述べられたことがとても印象に残っています。人と関わる自然な距離感を上手に保って、地域の人々の居場所づくり、住みやすさ、安心感につなげていきたいと思っています。これから高齢化が進み自治会離れが加速化しています。自治会の魅力を発信し、自治会の存在意義が認識できる自治会運営が今後求められていると思います。

事例
8

人とのつながりを重視して、 支え合う自治会の実現を

山形県鶴岡市 よけいまち 余慶町町内会

自治会紹介

- 全世帯数：305 世帯、法人 15 社
- 自治会加入率：305 世帯、法人 14 社（99%）
- 自治会女性役員数：3 人／12 人中（25%）
- 地区の概要：余慶町町内会は、1993 年に発足した自治会で、JR 鶴岡駅より徒歩 10 分ほどに位置し、近隣地域には大きな工場もあり、子どもが多い地域である。



自治会長になったきっかけ

町内会の会長を選ぶ際に自薦他薦で候補者を募集しましたが、立候補者がいませんでした。そこで副会長が 65 歳以上で会長をお願いできそうな方を訪問し、会長職を打診しましたが、依然引き受けてくれる方がいませんでした。男性役員は仕事をしているため、3 年前から町内会で会計担当を務めていた私が、自治会長を引き受けることにしました。この自治会では初めての女性会長として活動しています。

人と人をつなぐで、支え合う地域に

Ⅱ 人とのつながりで支え合う地域に

人と人とのつながりが重要だと考えています。人の交流が人を元気にするし、災害時の支え合いにもつながっていると思っています。人はいつどんなところで、どう人様にお世話になるか分かりません。また「遠くの親戚より近くの他人」という言葉もあります。そのため、地域住民のつながりを日々感じることが出来る自治会活動にしようと、誰一人取り残さない、支え合える地域づくりを目指しています。

特に、一刻も早く体制を組みたいと考えているのが、災害対応として隣組単位で支え合う体制作りです。新築したばかりの公民館の清掃を組別で月に 1 回実施し、その際に防災学習を行うことで、防災体制を作ることを考えています。

Ⅱ 町をとりまく環境との連携

小学校単位で構成される自治会連合会では、各自治会に分担された仕事があり、当自治会ではコミュニティ協議会の広報紙作りや社会福祉協議会の広報紙作り、そして学童保育を担当しています。各々の協議会の行事に参加したり、役員として運営に携わった

り、小中学校の行事への参加などを通して町と学校、近隣地域とのつながりを作っています。また市の行事や会合では、防災、消防、除雪などの各団体による説明会や講習会などの勉強会に参加して、町に必要なことを学び、住民へ伝えるほか、市へ要望を提出したりします。外との連携をするための活動が多いです。

Ⅱ 住民の健康増進と体操教室

地域住民との顔の見える関係づくりと健康増進のため、町の保健推進委員と共に2018年5月から週1回、体操教室を開催しています。この教室は市が推進する「いきいき百歳体操」という介護予防活動で、折々に保健師による体力測定や栄養、運動などの指導や講話があります。会場である公民館が使えない時は、「避難所まで歩こう会」を行い、近くても歩いたことのない周辺地域まで散策をしました。同じ町内でも顔も知らないといった方々の集いでしたが、活動によってつながることで、元気になってきたと思います。

運営資金の透明化

Ⅱ 透明性の高い自治会資金の利用

「役員は町の金で酒飲むな」、「行事の飲食代への自治会費の支出に疑問がある」等の声がありました。自治会費の使い方に町の皆さんから「信頼」してもらう基本があること、また会費が1年間6000円という決して少ない金額ではないこと、そして定額支給になっている役員報酬も、役員の参加状況を考えるとどうしたら良いかと考えていたところ、役員の中でも「今年はあまり参加ができなかったので手当をいただけない」という方がいました。2018年4月より、組長さんへの基本の謝礼以外に作業への参加に対して報酬を支払うことを提案し、了承を取りました。「労働に対する報酬の見える化」と「自治会費使途の見える化」を進めたいと新年度に向けての役員会に提案し、現在苦戦しつつも奮闘中です。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が参加することで、女性の視点が加わります。女性の持つ柔らかい雰囲気やしなやかさは地域の交流や住民とのコミュニケーションを図る上で重要と考えています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

女性が自治会活動に参加するのに、特別な知識や経験、力が必要なわけではなく、普通の生活の中で感じる事、気づいたこと、また小さな声を聞いて、地域の皆さんがお元気に過ごせる環境づくりの一助となるために一緒に頑張ってみませんか。

事例
9**運営の工夫から
家族での自治会参加と利用を促進****青森県三沢市 南山町内会****自治会紹介**

- 全世帯数：321 世帯
- 自治会加入率：183 世帯（57%）
- 自治会女性役員数：4 人／20 人中（20%）
- 地区の概要：中心街から少し外れ、スポーツセンターやサッカーコート、国際交流教育センター、病院や小学校など多様な施設を近隣に有する住宅地の自治会。

**自治会長になったきっかけ**

副会長を一年勤めていた際、前会長が総会前に突然引退発言をされました。引き止めたのですが、決意は固く辞めるとのことで、急遽会長候補を探すこととなりました。適任と思われる方々を訪問しましたが全て断られてしまいました。他の理事の方から「これからの時代は女性が会長でもいいんだよ」との声があり、会長不在の町内会になるのは良くないと思い、理事の方に留任して助けてもらうことを条件に会長を引き受けました。当時は、市の非常勤職員として勤務していたため、十分な活動ができるか不安でしたが、家族と話し合い、引き受けることにしました。今年で会長になって4年目になります。

多くの住民が参加と自治会を活用できる仕組みづくり**Ⅱ 少数参加の行事から全会員を対象に**

自治会では、高齢者を対象とした老人クラブや手芸クラブ、グランドゴルフクラブ、またカラオケサークルなど様々な活動の助成をしていました。しかし、中には稼働状況が分からないものや、参加者が限られる少人数のクラブ活動もあったため、助成金の使い道を再考しました。そして少人数制の活動を廃止し、全会員を対象とした町内会主催の旅行や新年会での餅つき大会などの、大人数が参加できるイベントを重視することとしました。新年会では地域で民謡教室を開いている方を招いて、みんなで歌い、住民の地域への関心を深めています。その結果、女性の参加と家族ぐるみでの参加が増え、より公平な事業展開ができていると感じています。自治会の行事案内は必ず每户配布を徹底することで、住民全体へ情報共有を意識し、多くの住民の参加を促しています。

Ⅱ 集会所の貸し出し

今まで、集会所の貸館内容が不明瞭で、値段や使い方が分かりづらく、利用が少ないといった状況にありました。そこで、集会所の貸出内容を整理し、会員・非会員の料金表を作成しました。その結果、着付け教室や家族や友人同士の集まりなどに集会所を利用してもらえるようになりました。住民の方々の交流を促進する一助になっています。

運営側と住民側の双方で顔の見える関係づくりを促進

Ⅱ 自治会の運営改善から顔の見える関係性づくりを

以前は、班長会議などの役員会議の際は学校方式の席配置を取っていました。しかし、19 班もあるため、顔と名前が一致しない問題がありました。そこで、会議の席づくりをコの字方式に変え、班番号やお互いの顔と名前が一致するように工夫しました。また、役員と住人同士でも積極的な情報交換を行っています。毎月理事会と班長会議を開催し、町内会のことを理解してもらう機会をつくるほか、会議の前に会長と地域の課題を議論する場を設け、地域の現状理解を相互に深めています。その他、班同士で行う掃除当番に理事が必ず参加し、相談や連絡が取りやすくなるようなつながりを構築しています。住民に対しても、広報誌の配布に各班長に必ず参加してもらうことで住民との顔の見える関係づくりを実践しています。

住民の方々にも、「気づいたらすぐ電話」を合言葉に、街灯電球の交換や道路の穴、ゴミ出しに関する相談などどんな些細なことでも、困ったことに対応するようにしています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が自治会活動に参画して、女性の得意分野を活かすことで、女性自身が積極的になるだけでなく、自治会の雰囲気が良くなっていると感じています。女性のコミュニケーション能力によって、多くの会員の意見が取り入れられるようになり、公平な活動展開ができるようになると思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会の仕事は全部が自分一人ですることではありません。力仕事などを振り分けたり、地域の人を知り、いろんな特技を持っている方々と協力することがとても大切です。これからは子ども食堂や放課後学習、夏休みのイベントなど、関係機関とも連携して、地域で子どもを育て、子どもたちが地域を好きになる取組みを進めたいです。町内の人たちと一緒に行事を企画し、生きがいのある生活の中で、皆さんの笑顔が見れるように、また、他地域の好事例を参考にしつつ、住んで良かったと思える地域になるよう、これからも活動していきたいです。

事例
10

顔の見える関係の構築で 住んでよかった街づくりを実現

新潟県新潟市 須賀団地自治会

自治会紹介

- 全世帯数：610 世帯
- 自治会加入率：610 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：13 人／20 人中（65%）
- 地区の概要：新潟市西部の住宅地で、多様な行事を長年にわたり実施する地区。



自治会長になったきっかけ

婦人会の部長を 10 年務めておりました。17 年前に、前自治会長が高齢のため退任されたので、推薦を受けて自治会長を引き受けました。

「住んで良かった」と思える地域づくり

Ⅱ 子どもの思い出溢れる町内会づくり

自治会活動では「子どもの思い出づくり」と「この街に住んで良かったと誰もが思える自治会」の実現を目標に活動してきました。町内では、大運動会や敬老感謝祭、地域ふれあい餅つき大会、自主防災訓練などの様々な行事を実施しています。

また、地域のまちづくり協議会の女性支援隊員としても活躍する女性会員により、子ども食堂の運営も行われており、地域で子どもたちを見守り、育てています。

Ⅱ 顔の見える関係づくり

顔の見える関係を重要と考えており、私個人としても町内をできるだけ歩き、地域の住民と顔を合わせ挨拶をすることを心掛けています。また、民生委員にも町内行事に参加してもらい、地域の方々に顔を知ってもらうようにお願いしました。月 1 回の役員会のほか、年に 1 回、会長、民生委員、友愛訪問担当の方々と広く話し合いの機会を持ち、町内の諸問題について情報を交換し、議論を重ねています。

現在、まとまった降雪があった時の除雪や、普段のゴミ出し困難者の課題がありますが、行事を通して培った近隣のつながりによる協力や、「ゴミ出しお助け制度」を活用して対応しています。

女性の参加を促す運営での工夫

|| 若い家族と女性たちの参加が促進

役員の高齢化が進む中、後継者の育成が課題であり、若い世代の参加が重要と感じています。そこで、私が会長となってから、様々な自治会行事の担い手に若い方の参加をお願いするようにしています。運営の工夫点として、4人の副会長に、総務、衛生、防災、行事の各業務を分担し、自治会を4つの区に分けて、区長の元にそれぞれ班長38名を配置しました。そして、小学生、中学生の保護者による育成部を設けて、すべての行事への参加をお願いしています。その結果、運営が組織化され、若い家族や女性の方々の町内行事への参加が増加し、町内活動にさまざまな方が関われるようになったと感じています。困りごとなどは気楽に話をするようになり、コミュニケーションも増加しました。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自治会活動では、女性が活躍する場面が多くあります。災害時の対応において女性の視点は重要となり、女性同士のことや子どもについては生活と密着した女性の方がよく知っていることもあり、自治会の防災訓練においても女性の活動を取り入れています。地域に密着した女性たちによる、子ども食堂の運営なども行っており、様々な場所で女性の活躍に助けられています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

これからは、一層地域の力が求められる時代であると思うので、地域で解決できることは地域で行うことをさらに目指していきたいと思っています。従来から目標としてきた、「子どもの思い出作り」と「この町に住んでよかったと誰もが思える自治会」を実現するため、引き続き努力をしていきたいです！

事例
11

「みんなで力を出し合うところ」 としての自治会づくりを促進

広島県広島市西区 こうごみなみ 庚午南連合町内会

自治会紹介

- 全世帯数：1,448 世帯
- 自治会加入率：955 世帯（66%）
- 自治会女性役員数：45 人／67 人中（67%）
- 地区の概要：1994 年以降、庚午南町の 1 丁目から 3 丁目の町内会が分割し、それぞれの町内会と連合町内会として活動。地域の商店街とも連携。



自治会長になったきっかけ

庚午南 1 丁目自治会の役員を務めた経験があり、当時の庚午南 1 丁目自治会長から会計担当をやってほしいと頼まれ、6 年間引き受けました。その後、副会長 2 年、会長 4 年と総務を 3 年務め、月に 1 度の 3 町の連絡協議会メンバーとして活動しました。2015 年に 10 年間連合町内会長を務めた 2 丁目の会長から、今後、会長職を 1 丁目で引き受けてほしいと要望され、総会で私が選出されました。現在は、庚午南 1 丁目の会長と兼任で連合会長を務めて 3 年目になります。

「みんなの町内会、みんなで力を出し合うところ」を目指して

Ⅱ 自治会活動を目に見える形に

かつての自分を含め、町内の皆さんの意識の中に、「町内会？」、「何しようってん！」という地域への関心の少なさを感じました。また、町内会の運営においても、会長、副会長、そして会計と小回りの利く人に集中している状況をなんとかしたいと考え、「みんなの町内会、みんなで力を出し合うところ」にするべく様々な活動を行っています。特に、町内会費の用途を可視化するため、また子どもたちにとって思い出を作る機会を提供するため、町内会主催でバスハイクを始め、どんど祭りや夏祭り、町内大運動会、秋祭りなど、多くの行事を開催しています。地域住人同士のつながりや地域への関心の促進を促しており、参加した住民の方からも満足の声を多く聞けています。

|| みんなで小さな力を出し合っの地域づくり

この2、3年では、かつての子ども会役員OB/OGの方々が、積極的に町内会に関心を持ってくださり、「手伝います」との声をかけてもらっています。皆楽しそうに参加している姿を見ると、「みんなで力を出し合うところ」と願ったことが、成就してきていると感じています。また、現在地域住民の約半数が住むマンションと私立保育園の建設時には、建設に対する町内の声を事業主に届けようと、自治会会員による勉強会を1年間続けました。その結果、自治会側の声が届けられ、マンションの入居規約に自治会の加入を加えることとなり、減少する自治会会員への対策や住民の地域への関心を促進することができたと思います。

|| 一人暮らし住民の交流サロン「かのえフレンド」の立ち上げ

「地域の中で隣の人とつながろう」をテーマに、一人暮らしの住民の方が交流するサロンとして「かのえフレンド」を立ち上げました。月に1度、参加者が100円ずつ出し合い、情報交換をしたり、親睦を深めたりと交流を行っています。その結果、地域の中で一人暮らしの高齢者の見守りができ、安否確認になると同時に、一人暮らし世帯の生活支援にもつながっています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

子ども会の運営に若いお母さんたちが1年交代で関わっていただいています。今の時代は働きながらの役ですが、町内や3町の連合協議会にも出席し、各行事に積極的に取り組んでくれており、その一所懸命な姿勢にとっても励まされます。お母さんと一緒に町内の行事に参加することで、子ども同士のつながりやお父さんの参加も生まれ、家族ぐるみでの参加が促進されています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

今回、東京での「女性自治会長情報交換会」への参加、また広島市による「地域活動における男女共同参画セミナー」へ事例発表者として、地域との関わりを振り返る機会をいただきました。参画とは意識をもって参加するとの意味ですが、会長としての意識をどこに置きましょうか。私の経験では、【みなさん、こんにちは！】の心に置くことです。町内を自転車で走っていると「こんにちは！」の音が嬉しいです。【願いを持つ】未来の花である子どもたちに、楽しい思い出が心に残りますように、またお一人暮らしの方にも笑顔でつながっていただきたいです。会長の役割を楽しんでやりましょう。そのためにも、自分自身が健康で、家族が健康であることです。地域のことは一人、二人でできる事ではありません。小さな力も合わせると強い力になります。「力は出すもの、出せるもの」が町内の方々の中にある事を信じて、次にバトンタッチしていきたいと願っています。

事例
12

地域で高齢者を見守り、 安心して暮らせる地域づくり

秋田県能代市 のしろ 能代市自治会連合協議会

自治会紹介

- 全世帯数：50 世帯
- 自治会加入率：48 世帯（96%）
- 自治会女性役員数：10 人／16 人中（63%）
- 地区の概要：能代市の中心市街地に位置している。能代市で最も歴史のある自治会で、誇り高く活動中。



自治会長になったきっかけ

能代市には古くから伝わる伝統行事があり、これには男性しか関わることができませんでした。しかし、前会長が亡くなられ、役員で話し合いを重ねましたが、なかなか会長職の引き受け手がいませんでした。地域の特色からも男性が会長になった方が良いのではと思いましたが、役員からの推薦を受け、やむを得ず会長に就任しました。就任後、自治会に新たな組織「祭典委員会」を設け、男性のみで祭典行事を運営できる体制を作りました。現在は、会長になって 16 年目になります。

地域一丸となつての高齢者の見守り

|| 住んでいてよかったと思える地域づくり

地域の中で「自治会」あるいは「町内会」は、極めて重要なものだと考えています。人口が減少しても、そこには必ず、その地に生き、生活する人々が存在します。少数でも安心、安全で「住んでいてよかった」と思える地域づくりを目指しています。特に、厳しい冬場における一人暮らしの高齢者の安全を重視しており、常に高齢の住民から相談を聞ける体制作りを行っています。

|| 自主防災と夜間安否確認

2005 年に「自主防災組織」を立ち上げました。現在に至るまで、一人暮らしの高齢者を主な対象とした安否確認活動と、毎年テーマを変えて様々な自主防災活動を行う防災訓練日を設けています。一人暮らしの高齢者宅を回り安否確認を行った後、防災セミナーという形で、炊き出しや炊飯袋を用いた簡易炊事の講習、避難所運営マニュアルの確認を行います。今後は、能代市全域を巻き込んだ連携活動を検討しており、昨年から一時避難所を共有する 13 の自治会に声掛けをし、有志自治会による能代第一防災協議

会を立ち上げました。地域がまとまらないと防災は何もできないと考えており、顔の見える関係づくり、つながりを目指した連携活動を行っています。

また 2015 年には、能代市で初めてとなる、自治会単独での「夜間安否確認」を実施しました。昼間は気付かなかった段差や暗さなどの危険を確認し、高齢者や体の不自由な方の目線に立って防災を考えることができ、とても勉強になりました。市や地域の人々からも高い評価を受けています。

Ⅱ 買い物難民の解消や世代間交流の機会を生んだ「まちなか交流」の場づくり

生産者である農家と町内の消費者との「まちなか交流」の場をつくる目的で、毎年 6 月～11 月に朝市を開催しています。この朝市は、一人暮らしで交通手段のない高齢者にとって、買い物支援につながったと同時に、高齢者の安否確認の役割を果たすことができおり、毎年好評をいただいています。また、朝市の他にも、世代間の交流や人口減少を食い止めるため、若者の異業種間連携を目的に、「マルシェ」を開催しています。マルシェでは、地産地消の野菜や魚、子ども向けの木製玩具の販売など、参加者拒まずで多種多様な出店を行っています。遠方や他地域からの来客や若者世代、特に親子連れの参加が増え、衰退していた中心市街地に活気が出てきています。同時に、市内で交流する人口が増加し、活発な自治会活動へとつながっています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性たちの視点は日常にあり、生活に密接しています。そのため、安心安全の地域づくりに非常に適しています。私の自治会では自治会館などの拠点がなく、6 年前に会費を利用し交流のためのコミュニティ施設を開設しました。多趣味かつ多才な女性たちが沢山いることに驚きました。また、女性はフットワークが軽く、実行力に優れている人や、広いネットワークを持つ人が多いことを実感しました。こういった人々が「地域づくり」には必要不可欠であると感じています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

これまでは、男性が中心であった自治会活動ですが、これからは女性や若い世代が積極的に参加し、日頃思っていることを発信し、実行していくことが重要になってくると感じています。あきらめず、忍耐強いのは「女性」の強みと感じています。

私も「継続は力なり」を実践し、少しずつ地域の改善を心掛けたく活動しています。有言実行あるのみ！

事例
13

自治会独自で高齢者部を立ち上げ、 活動を活性化

神奈川県相模原市南区 自治会法人^{みそのみなみ}御園南自治会

自治会紹介

- 全世帯数：480 世帯
- 自治会加入率：360 世帯（75%）
- 自治会女性役員数：7 人／20 人中（35%）
- 地区の概要：小田急線相模大野駅からバスで約 10 分の住宅地。自治会創立当初の 150 世帯から 2 倍以上に増え、2018 年で創立 50 周年を迎えた。創立当初から毎年夏まつりを開催。

相模原市南区



神奈川県

自治会長になったきっかけ

前会長と相談役 7 名からの推薦を受けて、総会で承認されました。御園南自治会初めての女性自治会長に就任して、2018 年で 12 年目となりました。1977 年には 1 名だった女性役員数も徐々に増加し、この 12 年間は 5~6 名（全体役員数の約 35%）を維持しています。

新自治会館を拠点とした高齢者の居場所づくり

Ⅱ いきいきサロン御園南の実現

7 年前に新自治会館（公民館）が完成して、ここを拠点とした「いきいきサロン御園南（高齢者つどいの場）」を実現できました。現在も、女性民生委員、女性役員などの協力を得て、地域の高齢者に手作りの昼食を提供したり、ボランティアによる交流イベントを企画したりと活発な活動が続き、毎回 30 人~40 人ほどの高齢者で賑わいます。また、老人会の入会者が減少してきたことを機に、市老人クラブの所属から脱会し自治会が独自で高齢者部会「ゆとり御園」を立ち上げました。その結果、老人会役員の負担が減り、自治会館を拠点に自主的な活動を展開しています。

コミュニティ減災・防災への取り組み

Ⅱ 自主防災定例会議で地域の防災意識を高める

そのほかにも、防災意識の向上とスキルアップを目指した「自主防災定例会議」を開催するなどコミュニティでの減災・防災にも力を入れ、いざという時の心構えを地域全体で身に付けています。女性の自主防災隊員も活躍しています！

Ⅱ 自治会運営を見直すことで、役員・組長の協力アップ

20 人の役員と 29 人の組長から成る御園南自治会ですが、会議の効率化が長年の課題でした。長時間の会議を見直して短縮を図り、要点をまとめて分かりやすい話し方を心掛けたり、配布資料を工夫したりと自治会運営そのものの見直しに力を入れました。その結果、役員・組長の出席率が上がり、特に組長の行事への参加協力が高まりました。そのおかげで、沢山の活動が継続できています。

Ⅱ 男性も女性も、楽しく活躍する自治会活動

高齢化の影響や若い世代の自治会離れ、働く女性も参画できる自治会運営への転換など課題も感じています。自治会への関心そして協力をいかに得られるか、苦勞しつつもウェブサイトを活用した情報発信も取り入れたり、魅力ある事業の企画・見直しを重ねたりと、少しでも成果があがるように取り組んでいます。

男性も女性も、会員である住民みんなが楽しい気持ちで活動できるよう心がけています。一部の人の負担にならないように、多くの住民で仕事を分け合い、負担を少しでも減らすよう努力しています。協力し合って、楽しく活動できる自治会運営を日々考えています。

御園南自治会の活動

- 防犯パトロール、年末警戒パトロール
- 児童の登下校を見守る「みまもり隊」への協力
- 年 2 回の防災訓練、自主防災定例会
- 災害時要援護者支援カードの登録
- 地域清掃、花いっぱい運動
- ゴミ置き場の設置
- 自治会ホームページの更新
- お祭り・餅つき・文化祭・敬老のお祝い会、年初め交流会など

課題に感じていること

- 高齢化による自治会離れ（会費が払えない、役員を担えないことでみんなに迷惑をかけることへの不安）
- 役員の高齢化と後継者不足
- 働く女性や子育て中の女性、若い世代の自治会への関心や参画を促す方策
- 役員の負担軽減

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自治会の活動、特に福祉の分野や住民間の親睦行事、防犯・防災には女性の力、参画が欠かせません。また、子どもや高齢者の見守りなど地域が抱える問題の解決にも女性の力が必要です。子育ての経験や日々の暮らしの知恵、そしてコミュニケーション力を活かすことで、バランスの取れた自治会組織となり、コミュニティの強化につながると思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長になってから、色々な人と出会い、活動を通して様々な勉強ができスキルアップにもつながりました。また、自身の社会性が育ち、人との関わり方を学ぶことでコミュニケーション能力もアップできたと思っています。これらの経験も、会長職を続けることができているのも、多くの方の支えや家族の協力があってこそです。支えてくれている周囲の沢山の方々に心から、いつも感謝しています。

事例
14

高齢者と若い世代、すべての人が暮らしやすい地域の実現

宮城県栗原市 若柳新山自治会

わかやなぎしんざん

自治会紹介

- 全世帯数：180 世帯
- 自治会加入率：167 世帯（92.9%）
- 自治会女性役員数：8 人／33 人中（24%）
- 地区の概要：岩手県との県境に位置し、2007 年 4 月に設立した自治会。多数を占める農家を営む古くからの住民と区画整理後に移住した住民が混在する地域。



自治会長になったきっかけ

もともと自治会の副会長を務めていました。総会の中で、会長候補として数人の男性の名前が挙がりましたが、皆さん辞退され、なかなか決定しませんでした。そんな中、会員の方から「長年、民生委員やボランティアの会長として活動していて地域のことをよく把握しているだろうし、副会長として自治会運営に関わってきたのだからぜひお願いしたい」と言われました。その声を受け、私で良ければという気持ちで会長を引き受けました。

高齢者と若者の両世代にアプローチし、地域を元気に

Ⅱ 高齢者の参加を促す

健康教室、介護教室、敬老会やグランドゴルフ大会など、高齢者を対象とした事業を多く実施しています。例えば、2003 年から月に一度、女性が中心となって社会福祉協議会と協力し、77 歳以上の高齢者向けの「お茶っこ会」を開催しています。この会では、毎月決まった日にお茶を飲み、情報交換をすると同時に、花見などの季節の行事と一緒に楽しむなど、地域で高齢者の居場所づくりを行っています。

また、今年度から、栗原市が介護予防の一環として推奨している「くりはら元気アップ体操」を始めました。週 1 回 65 歳以上を対象に教材 DVD を見ながら、筋力アップを目指し体操を楽しんでいます。どちらの事業も常に 30 名程度の方が参加し、交流を深めており、多くの皆さんが会の開催を楽しみにしていっています。

Ⅱ 子どもと高齢者の世代間交流から地域を元気に

高齢者のみでなく、子ども参加型事業としてバルーンアートと昔遊びを実施しました。以前はスポーツ少年団や部活動等で参加者が少ないことが悩みでしたが、小中学校のPTA 会長と連携して、事業日程や内容を決めたことで、こんなに子どもがいるのかと思うほど、多くの小中学生が参加してくれました。その結果、同じ地区に住む子どもたちと地域の人々が触れ合う機会となり、地域の親睦が深まりました。また、地区内にある高校との交流を図ることを目的に、敬老会で吹奏楽部の演奏や、介護教室では福祉教養系列の生徒にハンドマッサージをお願いしました。吹奏楽部の演奏では懐メロのメドレーを多くの参加者が喜んでいただき、孫世代との交流は楽しいという感想を数多くいただきました。

Ⅱ 住民の声を拾い上げるアンケートの実施

地区に暮らす人たちの声を広く聞きたいという思いから、自治会運営や行事等への要望や課題を問うアンケートを実施しました。回答率は低かったものの、若い自治会長への期待の声や心温まる励ましの言葉をいただき、とても励みになりました。現在はご意見ポストを設置して、住民の方から意見を貰っています。住民の声を自治会運営に活かし、行事の時期を決定など、より地域への貢献ができるように努めています。

また、日頃からの挨拶や声掛けなど、コミュニケーションを大切に活動しています。今後も子ども会やボランティア、その他の団体と連携し、一人ひとりの個性や特技を活かせる自治体にしたいと考えています。そして、高齢者が安全で安心して暮らせる地域、若い世代が参画しやすい地域づくりを目指していきたいです！

自治会活動へ女性が参画することの重要性

固定的な性別に基づく役割分担が根強いところもありますが、実際に会議や事業に参加するのは女性が多く、特に高齢者対象の事業には、多くの女性が参画し、女性の活躍が多く見受けられます。性別や年齢にこだわらず、個人の特性や特技を活かせる地域になることが大切だと思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

ちょっとの勇気を出して会長になったことで、地域の人たちと顔見知りになり、皆さんに助けていただきながら楽しく活動ができており、会長になって良かったと感じています。行政が行う研修や行事に参加する機会も増え、人とのつながりの幅が広がり、地域以外の人と交友関係できました。それに伴い新しい情報も入ってくるようになりました。皆さんもぜひ、会長をお願いされることがあれば、引き受けていただきたいと思います。

事例
15

子育て世代と協力し、 地域の子どもは地域で育てる

滋賀県守山市 よしみひがし 吉身東町自治会

自治会紹介

- 全世帯数：955 世帯
- 自治会加入率：890 世帯（91%）
- 自治会女性役員数：12 人／21 人中（約 57%）
- 地区の概要：若い世代の転居世帯が多く、自治会活動にも積極的。伊勢神宮との関係が深い馬路磯部神社があり、毎年 5 月 5 日には盛大なお祭りを開催。
50 年以上続く、歴史ある自治会。



自治会長になったきっかけ

前会長の市議会議員当選に伴う退任が決まり、前会長と役員の皆さんから依頼を受けました。民生委員・児童委員をしていたこともあり、両立できるか悩みましたが、守山市市長からの文書「自治会役員等の選出における積極的な女性の登用について」が後押しとなり、引き受けることを決めました。この文書は、自治会の会長・副会長における女性の登用を推進するもので、現在も市長が毎年発表しています。このような市の意向も支えとなり、やってみようかなという気持ちになりました。

子どもから高齢者まで一参加者が主体になる自治会活動

Ⅱ 子ども会と連携し、地域の子どもは地域で育てる

自治会役員の年齢層が若く、子どもの育成に力を入れています。次世代を担う子どもを地域で育てたい、という強い気持ちから、地域内の 3 つの子ども会と連携して、ホタルタベ鑑賞会や川遊び、子ども食堂など多くの活動を実施しています。かつては身近だった川遊びも、現在の子育て世代には不安があるという声を聞き、年配の方々の力を借りて子どもやその保護者と一緒に川遊びを開催しました。夏の川遊びは、現在では毎年恒例の人気行事となりました。

一方で、私を含め、子育てを経験した役員は多いのですが、現在の子育ての方法・要望は現役の子育て世代に聞くことが一番と考えています。役員だけで計画を推し進めることはせず、子ども会の役員との共同計画・実施に重きを置いています。

子どもの育成に関連した活動

- ホタルタベ鑑賞会
- 川遊び
- 交通安全教室
- 花植え
- クリクリーン大作戦
- 餅つき大会
- 子ども食堂（毎月）
- 子育てサロン（毎月）
- 障害児の通学支援（毎週）

Ⅱ 女性の視点を活かした、高齢者への取り組み

また、高齢者への活動にも積極的に取り組んでいます。特に、健康づくりと認知症予防に力を入れていて、毎週金曜日にはすこやか体操と茶話会を開催しています。体操の途中に茶話会を取り入れ、お茶を飲みながら情報交換することでお互いの見守りができるようになりました。また、参加者が準備から片付けまでを担当していて、自治会がお世話をするのではなく、参加者自身が「主催者」になることを大切にしています。

高齢者を元気にする活動

- すこやかサロン
- グランドゴルフ大会
- 災害図上訓練
- 介護者のつどい
- 認知症バス研修
- なごみ会
- すこやか体操・エクササイズ
- 茶話会

Ⅱ 地域に寄り添える自治会活動のために

自治会活動のなかで、住民の参加が求められる事業には苦勞しています。地域の皆さんが今なにを求めているのか、どんなことに興味を持っているのかを常に考えるようにしています。自治会長となったことで、地域の女性の立場になって考えることが増え、言葉にせずとも女性がして欲しいと思うことに気付けるようになるなど、細かなところに気配りができるようになりました。女性役員が多い子ども会からは、相談がしやすくなったという声も聞かれ、実際に行事やイベントへの女性の参加者も増加しました。老若男女分け隔てなく地域の皆さんの声に耳を傾け、男性の参加を高める工夫や若い世代と高齢者との交流を促す活動の提案などにも取り組んでいます。

Ⅱ 女性役員の活躍に向けて

自治会活動に理解と協力が集まり、子どもから高齢者まで住民の方々に寄り添った楽しいまちづくりを目指しています。そのためにも、女性副自治会長の設置に関する自治会規約の改定を視野に入れて、女性役員の増加、ひいては多様な意見が反映された自治会活動の促進に取り組んでいます。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自治会活動は男性の協力も大事ですが、女性の協力が不可欠です。女性も男性と同じく、十分な指導力、思考力を持っていて、笑顔と行動力、何事にも挑戦する力を持っています。また、女性の活躍には男性の理解が欠かせません。女性だからという偏見や決め付けにとらわれず、お互いに協力し、認め合えるようになって欲しいと思っています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長になって色々なことを勉強・挑戦ができています。今まであまり関係がないと思っていた行政の仕組みや自治会との関係なども深く分かるようになりました。何より、住民の皆さんのために活動ができ、笑顔を見られることが嬉しく私の財産になりました。若い年代の自治会への参加が多いことも嬉しく、自治会長になって良かったと思っています。常に笑顔を絶やさず、協力し合うことが明るい地域づくりにつながっていくと信じています。

事例
16

他部会と力を合わせて 子どもが喜ぶ行事を開催

大阪府寝屋川市 高柳 5 丁目南自治会

自治会紹介

- 全世帯数：約 500 世帯
- 自治会加入率：約 450 世帯（90%）
- 自治会女性役員数：2 人／10 人中（約 20%）
- 地区の概要：閑静な住宅地で、納涼まつり大会や餅つき大会など行事が盛ん。



自治会長になったきっかけ

前自治会長と役員の方々から直接、役員会の場で就任の依頼を受けました。

働きながら、他部会と共同して活動に取り組む

Ⅱ 元気な老人会と協力して、季節行事を開催

季節ごとの行事が盛んな高柳 5 丁目南自治会ですが、特に納涼まつり大会は、子どもから高齢者まで幅広く参加し、各部会による夜店の出店や婦人会による踊り子さんで毎年盛大に賑わいます。年末に行う餅つき大会も同様に、大勢が集い、豚汁やきな粉もちが参加者に振る舞われる人気の行事です。働きながら役員を務めている人が多く、平日はなかなか自治会活動ができません。そのため、元気な老人会のメンバーに色々とお願いをして、協力をしてもらいながら活動を行っています。

女性の視点を活かした工夫

Ⅱ 自治会活動に関わる周囲の人の声を反映—トイレ、台所の改修

かつては女性役員 2 名のみでしたが、私が自治会長となり女性役員を 3 名となるよう働きかけたことから 1 名増加し、役員全体に対する女性の割合は 2 割になりました。女性の視点は、長年実施してきた活動にも活かされています。例えば、高齢者向けサロンの活動では、参加者となる人々の要望を受けてトイレを和式から洋式に変更しました。また、活動を支えてくれているボランティアの方々の使い勝手を考え、台所の改装

を行いました。女性だからこそ気付く視点で、工夫と改善を繰り返し、関わる皆にとって快適で過ごしやすい自治会活動に取り組んでいます。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自治会活動には、子どもから高齢者まで幅広い世代の方が参加されるので、女性ならではの細やかな気配りが重要です。一方で、昔ながらの男性社会の考え方も根強くあります。それを変えていくために、今後は若い世代の参画を検討していきたいと考えています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長になってよかったことは、自治会、地域のコミュニティセンターや自治体の関係者など、沢山の方と交流ができるようになり視野が広がったこと、そうすることで自分自身が元気でいられるようになったことです。住んでよかったと思ってもらえるように、地域づくりに取り組んでいきたいです。

事例
17

世代間交流を促進！ 減災につながる強いコミュニティづくり

大阪府堺市南区 みいけだい 御池台校区連合自治会

自治会紹介

- 全世帯数：3,588 世帯
- 自治会加入率：約 2,500 世帯（69%）
- 自治会女性役員数：19 人／42 人中（約 45%）
- 地区の概要：1970 年初めに建設された泉北ニュータウンで、分譲住宅が多くを占め賃貸住宅は 97 世帯のみ。堺市では、小学校校区ごとに連合自治会を設けている。



自治会長になったきっかけ

前自治会長が都合により退任を申し出たものの、引き受け手が決まらず何度も頼まれました。私自身は専業主婦で、自治会活動には関心がなく、参加もしていなかったので「夫が了解したら引き受ける」と伝えたところ、前会長が夫に頼み込み、結果として引き受けることになりました。

世代を超えて誰もが楽しめるイベントを企画

Ⅱ 子どもから高齢者まで一幅広い行事の企画

地域会館（公民館）を拠点に、ほぼ毎日活動をしています。堺市から依頼される業務も多くありますが、連合自治会・福祉委員会・民生委員会と協力して業務分担しています。子どもから高齢者までが一緒に参加する行事が多く、秋には御池台チームとして結束を高める運動会、冬にはキャンドルナイトや餅つきと、世代を超えて誰もが楽しめるイベントが多くあります。御池台出身のアーティストとの交流も多く、音楽やアートを使ったイベント企画にも力を入れています。

御池台校区連合自治会のイベント <全世代>

- みいけキャンドルナイト
- ニューイヤーコンサート
- みいけ寄席
- みいけ食堂・モーニング
- 地域猫の会（保護猫の譲渡）
- 映画サロン

<子どもに関連>

- ぞうさんクラブ
- レインボークラブ
- 声かけ見守りボランティア

<高齢者向け>

- 筋力アップ・元気アップ教室
- 健康マージャン
- 物忘れ予防教室

Ⅱ 自治会活動の情報発信

情報発信も精力的に行っています。地域新聞「好きやねん御池台ニュース」を毎月発行するほか、フェイスブック、ブログを活用して積極的に情報発信しています。また、連合自治会、福祉委員会、民生委員会と協力して仕事を分担することも多く、子育て世代の声にも幅広く応えています。自治会活動は、災害が起きたときに減災にするためのコミュニティづくりだと思っています。

Ⅱ 自治会活動の今後に向けて

地域とのつながりが強く、活気のある御池台ですが高齢化に伴って班長の番が回ってきたタイミングで自治会を辞めてしまうケースが増えています。行政が進める施策も、高齢化が進む地域の現場とはかけ離れていると感じることも多いです。自治会の今後の在り方を考える人が減っていることが最近の悩みでもあります。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

今まで男性は仕事が忙しく、役員には女性が多く選ばれていました。最近は定年を迎えた男性が役員に就くことが増えてきましたが、依然、会長は男性、副会長に女性という構図は変わりません。自治会活動は、街を住みやすくするために子どもの安全やごみの分別など日々の生活に密着したことの積み重ねなので、女性の着眼点は重要だと思っています。

また、女性は職場や地域での肩書を自治会に持ち込むことがなく、必要と感じたことはすぐに行動します。高い実行力を持つ女性の参画はもちろん必須ですが、自治会活動の在り方を考える人を増やしていかなければと思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

会長を引き受けた当時は、自治会がどんな仕事をしているのかも知りませんでした。でも、連合会長を22年間務めるなかで沢山の行事や活動を立ち上げるうちに、苦手なことにも挑戦できるようになり、多くの方とも知り合うことができました。毎日忙しいけれど、皆さんが守ってくれることで頑張れる自分がいて、皆から元気もらっています。

これからも、活気あふれる元気な御池台の維持と、若い世代が引っ越してきてくれるような魅力ある街づくりに取り組んでいきたいと思っています。

「今日行く（きょういく）」事や、「今日用（きょうよう）」事があって幸せです。

事例
18

自治会活動を効率化し、 女性や子育て世代の参加を促進

高知県高知市 大津関町内会

自治会紹介

- 全世帯数：約 800 世帯
- 自治会加入率：約 650 世帯（80%）
- 自治会女性役員数：7 人／15 人中（約 46%）
- 地区の概要：第一種低層住居専用地域のため、戸建てに住む住民が多い地域。夜の夏まつり、子どもみこし巡業、県内外へのバスツアーなど自治会単独で多彩な行事を開催。



自治会長になったきっかけ

「お前しかおらん。やったらえいやいか（いいじゃないか）」という前役員からの依頼があり、引き受けました。当時の役員は全員男性、自治会長に女性を選出されるのは初めてのことでした。大変なこともありましたが、地域の人々とのつながりやぬくもりが大好きで、この町を存続させたいという思いから気付けば自治会長を 12 年間続けています。

自治会活動の効率化を工夫し、参加を促進

Ⅱ 自治会効率化で女性の参加がアップ

自治会長になってすぐ、自治会運営の見直しを図りました。長時間に及んでいた会議時間を 30 分に短縮し、開催頻度も月例会議から行事の前後のみに絞る、慣習化していた会議後の宴会を廃止するなど、自治会長・役員にかかる負担の見直しに努めました。

また、男性がほとんどを占めていた役員数と女性が多くを担っていた班長の割合をひっくり返し、女性役員の登用を進めました。男性役員が多い時には敬遠されがちだった子どもを連れての会議参加を歓迎した結果、女性が参加しやすい雰囲気が生まれ、女性の参加が増えました。

そうなったことで、形式的で堅苦しい会議というイメージはなくなり、これまで意見することにためらい

自治会運営の改善

- 会議時間の短縮
- 会議回数の削減
- 慣習的になっていた宴会の見直し
- 多数決に頼らず、公式の場での議論をもって意思決定
- 女性役員数の増加
- ひとりで情報・行事を持たない
- より多くの人を巻き込む
- 町内法人化

のあった人たちも気軽にアイデアを出してくれています。

Ⅱ 他の組織と力を合わせて行事を開催

高知市の自治会は自治組織としての役割が大きく、公民館の所有、それに伴う管理、ごみの分別など生活の根幹を支えています。地震に備えた防災訓練を年に1回実施している他、毎月行うごみの分別で顔を合わせ、会話をする機会も多いので地域の絆はかなり強いです。このような高知市の特徴も活かして、行事の時には自治会単独で開催することなく、公民館や防災会など他の組織のみんなで意見を出し合い、力を合わせて取り組んでいます。また、情報や行事の担当を一人で持たず分担することで、沢山の人を巻き込んで開催できるように工夫しています。

Ⅱ 自治会活動に携わる人材の育成

女性であるだけで役割を固定されることや、思い込みから差別的な対応をとられることも残念ながらあります。女性自治会長・役員の増加が促進される一方で、家庭、子育て、仕事と生活の多くを女性が負担する構造が変わらなければ意味がありません。定年年齢の引き上げや共働き世帯の増加で、時間の余裕がない人が増えるなか、年齢を重ねていく現役員だけでは自治会の活動を続けられないと感じています。大津関自治会では、自治会活動に携わる人材の育成に向けて、若い世代への活動参加を呼び掛けています。持ち回り制の班長は女性（特に母親）が多く務めているので、素敵なお手本を見つけたら声を掛け、交通安全やお祭りなど子育て世代と子どもの両方が集う行事・イベントなどを通じて自治会活動への参加を促すなど、積極的にアプローチしています。

Ⅱ 地域への思い、葛藤

日本社会では、ボランティアや寄付などの活動をあまり評価しない傾向があると感じます。組織や企業で高い地位に就く人ばかりが取りざたされ、地域に暮らす人のことや現場の課題は軽視されがちです。自治会の存在意義や地域の伝統、お祭りなど大切なことは子どもたち、若い世代には教えられていませんし、自治体が行うイベントや一時的な定住支援では若い人の心に響かず、魅力的でなくなればいずれ出ていってしまうのを止めることはできません。自分の住んでいる場所、そこに暮らす人々に誇りを持ち、感謝していくことを伝えなければいけないと私は思っています。地方に行くほど、自立していて元気でみんなの便利屋ができないとリーダーにはなれない分、人も仕事もお金も集まる都会の方が楽なのかもしれません。地域の人々からの「信頼度」が、皆に見える形で示されるようになれば、地域の課題に熱心に取り組んでくれる人も増えるのではと思います。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が役員を担うことで、男性が力仕事を積極的に手伝ったり、難しいことを言う男性役員の説得に尽力してくれたり、それぞれが得意なところを活かすようになりました。細やかな配慮ができ、団体行動ができる女性は、長期にわたって役員を務めてくれるうえ生活力も高く、地域を担う貴重な人材です。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

もっと人口が増えて元気な人を増やし、安心安全なビバリーヒルズのような町にして、リーダーシップとなる人材育成をしたいと思っています。色々なタイプの人に出会えること、自分たちで活動を組み立てて実行できることは自治会長ならではの醍醐味で、住民が増えて町がにぎやかになるのはとても面白いです。一方で、女性がリーダーになるには目に見えない制約も多くあります。リーダーになっていく女性を感じる壁がもっと理解される社会にしたいと思っています。同時に、地域の暮らしに密着した自治会の重要性が伝わるとういなと思います。

事例
19

要援護者に配慮した防災の取り組み

東京都葛飾区 上小松町会

自治会紹介

- 全世帯数：約 3,800 世帯
- 自治会加入率：約 1,900 世帯（50%）
- 自治会女性役員数：11 人
- 地区の概要：JR 新小岩駅近くの地域で、1957 年に自治会発足。町会単位で御護りしている天祖神社があり、3 年に一度行う神社祭は地域をあげて賑わう。



自治会長になったきっかけ

役員からの推薦を受けて、自治会長を引き受けました。

防犯・防災への意識向上に取り組む、魅力ある町会づくり

Ⅱ 防災に強いコミュニティづくり

地域の人々が安心して暮らせるように、昼夜の防犯パトロールや防災に向けた意識向上に力を入れています。何時見舞われるか分からない災害についての課題や不安は大きく、特に自力での避難が通常の人よりも難しいとされる高齢者、障害者、乳幼児等の要援護者への関心はかねてから高くあります。上小松町会では、要援護者に向けた取り組みに意識を高めています。また、防犯面で取り組みを開始して、会員数が増加しました。

Ⅱ 自治会への関心を高めるため、広報を工夫

その他、地域にある学校への応援や協力、行事への会員参加の呼びかけを回覧板や掲示板、インターネットを使った広報、車でのアナウンスなども積極的に行っています。自治会への無関心が全国的にも課題となっていますが、関心を持ってもらえる魅力的な自治会づくりを心掛けています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自治会会員、役員への細やかな心遣いができることや、誠実に活動に取り組み、周りの人と協力できることが女性参画の魅力と思っています。

事例
20

女性の目線から 自宅でもできる防災対策を促進

静岡県静岡市駿河区 中田一丁目自治会

自治会紹介

- 全世帯数：630 世帯
- 自治会加入率：ほぼ 630 世帯（99.9%）
- 自治会女性役員数：3 人／9 人中（33%）
- 地区の概要：静岡駅より徒歩 10 分ほどの中心地に位置し、商店や公共施設の便が良い。長年住んでいる高齢の住民と転入してくる若い世代が混住する地域。



自治会長になったきっかけ

もともと中田 1 丁目防災グループの「女性防災ネット」の代表を務めており、女性目線の防災活動を行っていました。自治会長に女性役員を増やしたいという思いがあり、前自治会長から推薦と、自治会役員推薦委員会からの依頼を受け、副会長を引き受けることとしました。防災を含め地域に何かしたいという思いから、副会長を務めて現在で 2 年になります。

女性の目線から地域の防災意識を促進

Ⅱ 生活者の目線にたった防災訓練の実施

女性防災ネットの会長だったこともあり、年に 2 回、女性目線での防災講座や防災訓練を行っています。3、4 年前に国立女性教育会館で受けた防災講座で、女性の災害時のリスクの高さに驚愕し、防災に取り組みたいという思いが生まれました。その思いから、初めての試みとして町内で講師を呼び、防災食の講座を主催し、スーパーのビニール袋とガスコンロのみで作ることができる「パッククッキング」を紹介しました。

食材を柔らかくすることができる他、アレルギーにも対応でき、水を使わず、洗い物を必要としないパッククッキングは、一般家庭で実践することができるため、参加者からも好評の声をいただきました。今まで町内行事への参加が少なかった方や女性の参加者が増え、町内の横のつながりも強化されました。2018 年には「食とトイレ」というテーマで、他の町内会とも連携し、防災啓発活動を広げています。

Ⅱ 粘り強い交渉によって、地域の防災倉庫の設置を実現

一度、男性の役員が小学校へ防災倉庫の設置依頼交渉を行ったものの却下され、「一度断られたからもうやらない」と諦めてしまいました。しかし、やはり必要だと考え、女性の役員3人で1年間粘り強く、様々な土地所有者や市等に交渉しました。しかし、どの土地も利用できず、再度、小学校に一年間の交渉結果をもって訴えたところ、小学校の敷地の一部に地域の防災倉庫を建設することができました。防災倉庫の中身も、女性の視点を含めることを重要視しました。特に、トイレットペーパーに比べて圧倒的に数が少なく、十分な数が準備されていなかった生理用品を増量し、女性が気兼ねなく物資を受け取れるように、女性専用のスペースの確保を提案しました。

「女性でもできる」ことを示して信頼を構築

Ⅱ 「女性だからできません」を絶対に言わないモットーとした信頼関係の構築

「女性だからできません」は絶対に言わないことをモットーに、力仕事にも積極的に関わることで、男性役員との信頼関係を構築してきました。役員として入ったからには、「女性もやってくれるじゃないか」と思ってもらえるよう、責任感を持って活動をしています。また、女性ならではの交渉力を駆使して、男性の役員たちが諦めてしまった交渉にも、粘り強く説得を続け協力を取り付けたり、区と市との連携を強化したりと働きかけました。その結果、町内からの信頼を得ることができ、特に防災に関することは、男性の役員や会長も一番に私に相談に来てくれるようになりました。

しかし、神事に関わることには、伝統的に女性が関われない事情がありました。その場合は、男性の担当として分担し、私は節分豆の袋詰めやお茶出しなどの裏方として、行事をサポートしています。初めの頃は、裏方作業でも「初めて女性が来た!」と驚かれましたが、現在は、役員の男性たちからも「ぜひ一緒に手伝ってください」と声掛けをいただいている、変化を感じています

自治会活動へ女性が参画することの重要性

生活に密着した女性の役員だからこそ、女性からの身近な意見や要望を拾い上げることができると考えています。例えば、ゴミ出しや普段の生活のことや細かい相談ごとが増加しました。女性が役員に入ることによって、若い人が町内に入りやすくなったとの声を聞いています。女性同士や近隣自治会とつながりを作り、女性が得意とする情報共有を通して、自治会に新しい視点を加えることができ、新しい提案ができると考えています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長として活躍する全国の女性の姿を拝見し、輝いて頑張っている方々の姿を見て、とても刺激を受けました。その姿を見て、私も頑張れる!と思いました。もちろん、女性の役員は女性からも応援してもらえますが、「女性なんだから、そんなに前に出なくても」といった意見もあります。しかし、これからそういった声はだんだん無くなっていくのではと思っており、女性の自治会長が今後の当たり前になってほしいと思います。これから後には続く女性の自治会長の方々とも一緒に頑張りたいです!

事例
21

高齢者の見守りと災害時にも耐え得る 住民・行政との関係づくり

和歌山県橋本市 たにおぶか 谷奥深区自治会

自治会紹介

- 全世帯数：11 世帯
- 自治会加入率：11 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：1 人
- 地区の概要：大阪府と奈良県に隣接し、最寄りの主要国道や京奈和自動車道まで車で 15 分程の山間の地区。主要産業は農林業だが、高齢化が進み耕作放棄地が目立ってきている。



自治会長になったきっかけ

前自治会長の体調不良により、後任が検討されました。私のいない所で会員の総意として私が選出されたことを夫から聞きましたが、自治会長を務めるとはこれまで想像もしていなかったため一度はお断りをしました。しかし、役員の方々から「あなたしかいない」「やってくれないか」という直接の頼み込みを受け、役員の皆さんも高齢となってきたことも考え、引き受けることを決めました。

住み慣れた場所で住み続けられるように—高齢者の見守りと安全な区づくり

Ⅱ 高齢者の見守り、日頃からの声かけ

谷奥深区の自治会加入率は 100%ですが、1980 年代後半と比較して世帯数は 3 分の 2 となり人口は半減しました。伊勢講などの伝統行事も廃止や簡略化せざるを得ず、古来の風習が失われつつあります。高齢化も進み、高齢者世帯や一人暮らしを続ける高齢の会員も多いことから、地域の危険個所を把握して、日常生活に支障が出ないように努め日頃の安否確認や生活の見守りを心掛けています。谷奥深区は農業を生業とする人が多い地域で、かつては仕事に出ていた人も自宅で過ごす時間が増えています。山間の集落 2 つに分かれていることと、状況によっては車での移動も難しくなっているため、ひとつの場所に集まって喫茶サロンなどの集いの場を設けることは馴染みにくいと感じました。役員それぞれが会員宅の近くを通った際には声を掛け、日頃から顔を見合って温かな関係を築いています。

しかし、ＵターンやＩターンがあまり期待できない現状では更なる高齢化と人口減少が見込まれ、区としての維持そのものが困難になるのではという不安もあります。それでも、住み慣れた場所で住み続けたいという願いが一日でも長く叶えられるように、橋本市や介護支援専門員、商工会議所、公民館、ボランティアが活動する橋本市生活支援協議体（たすけ愛♥はしもと）とも協働して、介護予防、買い物支援、移動支援など、いつまでも自分の力で生活し続けられる取り組みも進めていきたいと思っています。難しい課題は区だけで考えず、色々な人の知恵を借りて、お互いが支え合える地域を広めていきたいです。

Ⅱ 災害対応への備え、高齢者世帯への呼びかけ

大雨、台風などの自然災害が起きた際には、会員に避難の声かけと移動支援を行っています。2018年の大雨の際には、高齢者世帯に対して早い段階での避難を呼びかけました。また、土砂崩れなどの大きな災害に迅速に対応できるように、日頃から行政との協力関係を築き、危険場所の共有や緊急時の対策を話し合っています。

農業後継者不足による耕作放棄地も地域の課題になっています。耕作放棄地が増加すれば、害獣が増えて土地が荒れ、災害の遠因ともなり得るため、空き家の利活用も含めた移住・定住促進が解決の糸口になると考えています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

男性であっても女性であっても、その地域の構成員であることに変わりはありません。自分たちが住みやすい地域を維持するためにひとりひとりができることをしっかりやっていくこと、そしてお互いを助け合って暮らすことが大切だと思います。

自治会長が女性であることで、区会での話し合いが活発になり、話をしやすくなったという声を聞いています。住民の皆さんが気持ちよく、生活できることを第一のことと考え、それに基づく自治会運営を大切にしています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長になったことで、これまで知らなかった地域の課題が見えてくるようになりました。色々な人とつながり地域の課題に取り組んだり、災害時でも一番に地域に暮らす皆さんの安全を考えたりと日頃できないことをしていると感じます。

機会が巡ってきたら遠慮せず臆せず、自治会長を務めてみて欲しいです。仕事に加えて子育てや家事、介護など女性の負担が多いことも依然多く、後ろ向きになる気持ちもあると思います。でも「あなたにやってほしい」という声をもらったら、あなたにしかできない事を地域は必要としていて、あなただけが持っている新しい視点は地域の活性化に必ず貢献します。沢山の人が助けてくれるので、チャンスと思って手を挙げてください。

事例
22

自治体と協力し、 子どもや高齢者の安全を守る

三重県伊勢市 一之木町会

自治会紹介

- 全世帯数：約 1,333 世帯
- 自治会加入率：約 880 世帯（66%）
- 自治会女性役員数：本部役員会 3 人／8 人中（38%）
※区長、区の理事はすべて男性
- 地区の概要：南北に長い町で町内を近鉄線が横断。町内は 11 の区に分かれ、各区長が取りまとめをしている。20 年毎に行われる伊勢神宮のご遷宮行事には町をあげて参加。



自治会長になったきっかけ

伊勢市に住み 34 年が経ち、2 人の子どもに手がからなくなったのを機に、婦人会に参加したことが自治会活動への最初のきっかけです。当時の自治会本部役員は全員男性で、男女共同参画を推進する伊勢市の働きかけもあって副会長から自治会本部の女性を増やすようにと言われ、副会長を引き受けました。2006 年に副会長を引き受けて、8 年間務めた後、会長の退任に伴う会長代理を経て会長となりました。

自治体との協力を強めた、安全な地域づくり

Ⅱ 自治体と協力し、地域の課題に迅速に対応

各区長を通じて共有される住民の方々からのニーズや要望には、できるだけ早い対応を心掛けています。自治会だけでは解決できない要望の場合には、自治体に相談したり要望書として正式に提出したりするなどして、自治体にも積極的に働きかけ、住みやすい街となるよう取り組んでいます。最近では、見通しが悪く交通事故の不安がある道路を改善するため、自治体や警察と相談して目印となるポールを設置を決めました。日頃の相談・協働体制が味方をして、迅速な対応をお願いできました。日頃から自治体と良好な関係を築けるよう、努めています。また、「子どもを守る会」では、地域の子供たちを守る街頭パトロールなども実施しています。

|| 高齢者の集いの場づくり

毎月第3日曜日には、会長主催の「ふれあいカフェ」を行い、パンやお菓子、お茶を囲みながら、各回13人ほどの地域の方々が交流を楽しんでいます。活発で元気な高齢者が多いので、この活動においても自治体や社会福祉協議会からの協力をもらい、介護予防などの機会を積極的に取り入れています。

自治会活動の発信と後任に向けて

|| 自治会活動の周知

一之木町会は11区から成り、毎月1回開催している役員会には、11区の区長及び区の理事、青年部、婦人部、老人会、子どもを守る会、防災隊、防犯部、環境衛生部の代表など総勢40名弱が参加します。自治会長が考えていることや取り組んでいること、役員会で協議された内容が町民へ伝わることがないのを残念に思い、「町会だより」の発行を始めました。発行日が近づくと夜な夜なパソコン作業をしています。興味を持って読んでくれている会員の方も多く、毎月1回の発行を続けています。

|| 後任への引継ぎに向けて

私の任期は残り1年となります。協力的でまとまっている町内会を維持して、よい雰囲気のまま引き継ぎたいと思っています。伊勢神宮の遷宮に向けた準備や老朽化に伴う「ふれあいセンター」の建替工事を予定していることから、第一線で働いていた男性の力も借りて実現させたいと考えました。次期会長には、これまで一緒に活動してきた男性役員で、自治会活動、男女共同参画ともに関心の高い方を推薦しています。これまでの自分の取り組みと後任の方の意向もあり、女性区長の登用も前向きに検討中です。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

町会の傘下にある婦人部が縁の下で力持ち的存在で、特にお祭りでの調理は力を発揮しています。子どもを守る会には、若い母親の参加も多く、自治会活動を手伝ってくれています。女性が参加することで、全体的な雰囲気が柔らかくなり、物事がスムーズに進行するようになっていきます。女性の強みを活かして、様々な関係者と協力・相談し合って物事を進めたり、きめ細やかな対応を実現したりと女性の活躍も欠かせないと思っています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

自治会長の仕事は負担も少なくなく、家族の協力も不可欠なので簡単には自治会長になることを勧められない気持ちもあります。しかし、自治会長になって町内に限らず伊勢市内に沢山の知り合いができました。交流を通じて色々な話ができ、とても楽しいです。町民が一丸となり、明るく住みやすい楽しい町を願っていますが、長年続く納涼祭、2018年で14年目となる一之木ふれあい祭りのいずれもまだまだ参加者が少なく、もっと皆を巻き込んで開催できるイベントにしていきたいと思っています。そうすることで、災害時の自助、近助（きんじょ＝近所）、共助、公助にもつながると考えています。

事例
23

町内パトロールで、 安心安全な自治会づくり

愛媛県新居浜市 松の木自治会

自治会紹介

- 全世帯数：520 世帯
- 自治会加入率：340 世帯（65.4%）
- 自治会女性役員数：2 人／13 人中（15%）
- 地区の概要：松の木自治会は、燧灘（ひうちなだ）に面した新居浜市東部の川東地区に位置する。住友化学株式会社の社宅管理から離れ、1972 年に発足した。



自治会長になったきっかけ

地区の女性により設立された任意団体である「松の木コスモス会」の会長を長年務めていました。また、松の木自治会役員を 5 年間、自治会放送係を 20 年間務めておりました。そのように長年地域活動に関わっていたことから、前会長から自治会長をしてもらえないかと頼まれ、引き受けました。

安全で、安心な自治会づくり

Ⅱ 防災対策、安全な公園づくり、町内パトロールを実施

突然起こる大きな自然災害をどう予防し、どう命を守るか、防災について講習会に力を入れました。小学校では年に 1 回豪雨や津波を想定した避難訓練を実施しています。社会福祉協議会と連携して行っている、一人暮らしの高齢者向けのサロンでは、3 カ月に 1 回防災について講習会を行っています。また、松の木公園の遊具が古く危険だったため、市に要望を出して新しい遊具の取り付けを行ったり、青年団と協力して 2 カ月に 1 回公園の清掃を行ったりして、子どもたちが安全に公園で遊べるよう活動しています。さらに、町内のパトロールも青年団と協力して行っています。

住民一人一人の力で地域活動を盛り上げる

Ⅱ 様々なイベントを開催し、地域を活性化

春は子ども太鼓台運行、地区運動会、夏は夏祭り、秋は敬老会、新居浜太鼓祭り、文化祭、冬には餅つき大会、など一年を通して行事を行っています。杵や臼を使って餅をつく機会のない子どもたちにとっては、餅つき大会は貴重な機会です。地域の大切な交

流の場なので、一つ一つの催し物を大切に、皆さんのお力を借りて、できる限り続けたいです。

Ⅱ 自治会加入者数を増やすための工夫

減少する会員離れをどう食い止めるか、会員の加入のお願いにも努力しました。例えば、転居してきた方のご自宅には必ず訪問し、自治会の紹介をしています。自治会に入ると粗大ごみなどの市に手続きをしなければいけないことが必要なくなるなど、自治会に入会する利点もお伝えしております。

Ⅱ 会員同士の和と輪を大切にする自治会に

数々の役員をしてきましたが、自治会の会長として会員のみなさんに助けてもらうことが自治会活動の原動力になりました。会長になって良かったと思ったのは、初代の女性会長として、きめの細かい気配りを感謝されたことです。自治会活動の中で、会員同士の和と輪の大切さ、人づくりの難しさを痛感しました。これからも住民同士が助け合う自治会にしていきたいです。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

これからの自治会活動は、男女共同参画がますます必要です。多様化していく会員のニーズを消化するためにも男女が協調し、男性の会長だけでなく、女性会長も増えるべきです。女性にしかできない細かい気配り、おとなりさん、お向かいさんの仲間づくり輪が広がり、ひとりひとりの会員の意識改革が大切だと思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

女性ができることを考えて活動されるのが良いと思います。私自身も、住民の皆様から「女性だからきめ細かい運営をしてくれている」とお褒めの言葉をいただきました。是非、女性だからできることを活かして頑張ってください。

事例
24

地域の高齢化に合わせた災害対策

茨城県古河市 東杉並町自治会

自治会紹介

- 全世帯数：約 8 世帯
- 自治会加入率：8 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：持ち回り制のため役員なし
- 地区の概要：旧古河市の歴史的建造物、古河城藩主土井家の家老・小杉の庭園が存在する住宅地。自治会加入世帯は 8 世帯、うち実際に居住している世帯は 6 つと閑静な風情ある街並みのなかに位置する。



古河市

茨城県

自治会長になったきっかけ

自治会加入世帯が 8 世帯（転出等により実質的には 6 世帯）と少なく、高齢化も進んでいたため会長職を 2 年間の任期制として持ち回りで行うことを決めました。2017 年から自治会長を務めていて、2019 年の総会で 1 年間の任期の延長を決めました。

高齢化が進む地域の難しさと、災害に備えた取り組み

Ⅱ 仲が良く、お互いの顔が見える自治会

かつては城下町として栄えた地域で、会員の皆さんも長くこの土地に住まれている地元の方々なので、とても仲が良く、争いごとの無い平和な自治会です。お互いの人となりはもちろん、家庭状況のことや健康面での心配事も思いやり、相談し合いながら自治会を運営しています。加入世帯が少ないうえ、体力的にも実働できる人が限られているので、特別な取り組みはしていませんが、毎年の敬老の日にはささやかな食事会を開催して、交流の機会を設けています。

Ⅱ 災害時に備えた取り組み

高齢者が多いため、自治体が指定する避難所までの移動が課題となっていました。私自身がホテルを経営していることから、ホテルの方がアクセスしやすい方々に利用してもらえよう、ホテルを災害時の一時的な避難所として整備、登録しました。市の消防局とも連携し、万一の際に備えた周知徹底に努めています。

Ⅱ 高齢化に伴う自治会存続の難しさ

昔ながらのお付き合いが続く穏やかな地域である一方、核家族の増加や少子高齢化に伴い、自治会加入世帯は8世帯と自治会の存続に直面しています。自治会長は持ち回り制とすることで合意されていましたが、自治体から依頼される対応や書類仕事は依然多く、高齢になるにつれて躊躇される方も多いのが現状です。次期は私が任期を延長することで切り抜けましたが、今後のことは引き続き、皆で考えていく必要があります。

このような状況を受けて、近隣自治会との統合も検討されています。しかし、自分たちが暮らす地域以外への馴染みは薄く、会費や組織体制の調整など実務的な面からも複雑な課題が多いため統合には後ろ向きです。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自然災害の多い日本で、避難場所での子どもや高齢者へのきめ細やかな対応には、女性の活躍が重要だと思っています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

引っ張っていく立場になるうえで、自分の意見を持ち、思っていることをはっきり言うことが必要になると思います。勇気を持って意見して欲しいです。

また、自治会長などの地域社会での意思決定に参画していくことはもちろんですが、政治や様々な職業などのあらゆる舞台で、女性の進出が広がることを強く願っています。

事例
25

毎日の声かけで高齢世帯を見守る

京都府京丹後市 いえのたに 家ノ谷区自治会

自治会紹介

- 自治会加入率：7 世帯（女性 5 名、男性 2 名）
- 自治会女性役員数：なし
- 地区の概要：住宅不足が深刻となっていた 1960 年代に、府営住宅の誘致などを経て家ノ谷地区が誕生。府営住宅に暮らす住民で自治会活動を行っている。



自治会長になったきっかけ

定年を機に家ノ谷地区に戻り、選挙での決定を受けて自治会長となりました。

高齢者への見守り、できる範囲で活動を継続

Ⅱ 高齢者世帯に対する日頃の声かけ

自治会会員の高齢化が進み、会員 8 名のうち 6 名が高齢者です。介護を必要とする方や要支援の認定を受けている方が大半であるため、週 3 日の頻度で自宅に出向き、お話を聞いたり、最近あったことを共有したりという声掛けを続けています。高齢化に伴い、環境美化活動など以前から実施してきた地域の活動の継続が難しくなってきましたが、ごみ出しの見守りを順番に行うなどできる範囲で活動の維持に努めています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

男性、女性と一括りと言っても考え方はそれぞれの個人で異なります。勇気があってもなかなか言えないことは度々ありますが、性別にとらわれず自治会活動への思いや重要性を届けていく必要があると思っています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

定年を迎えた後、市外から戻り 7 年間自治会長を務めさせていただいています。色々と勉強になることが多く、とても有難いことと感じています。しかし年々、会員数が少なくなってきていて、自治会活動の継続も難しくなってきました。地域に暮らす住民の数も少なく、寂しい思いがありますが、女性の会員数の方が多い自治会であるからこそ、これからは女性にもっと頑張ってもらいたいと思っています。

事例
26

女性が参加しやすい工夫をしながら 自治会運営

埼玉県飯能市 美杉台 4 丁目自治会

自治会紹介

- 全世帯数：440 帯
- 自治会加入率：395 世帯（90%）
- 自治会女性役員数：6 人／14 人中（約 40%）
- 地区の概要：1989 年に街開きをした新興住宅地。



自治会長になったきっかけ

もともと、小学校、中学校の PTA 会長を務めていました。その後、自治会の役員に誘われ 4 年間役職を務めました。任期である 2 年ごとに会長を交代するため、前会長が退任する際に依頼を受けて会長になりました。

女性が参加しやすいように工夫しながらの活動

Ⅱ 平易な言葉づかいで誰でも理解しやすい資料作り

女性が参加しやすいよう自治会運営を工夫しました。例えば、総会資料等は会員の皆さんに読んでいただくために、主婦目線で、なるべく平易な言葉遣いにして、分かりやすく、受け入れやすいものに変えました。委任状など難しく感じる方もいるので、総会への参加・不参加と明確な形にし、どなたでも受け入れやすいよう工夫しました。

Ⅱ 女性自治会長だからこそ些細な相談が増えた

女性自治会長だから、地域の皆さんから気軽に相談していただけるようになったと感じます。例えば、隣の家の猫の糞の問題や、子どもの通学路に住民以外の車が多くて危ないなど、今まで聞いたことがなかった相談が、私が自治会長になってから増えました。女性だから相談しやすいというのも、女性自治会長の一つの利点だと思います。

子どもや高齢者の課題に対する活動

Ⅱ 子どもたちに故郷意識をもってもらおう

新しい街なので、子どもたちに故郷意識をもってもらおうと 24 年前から「美杉谷フェスタ」というフリーマーケット中心のイベントを毎年行っています。イベント内では、

中学 3 年生全員に、「20 歳の自分へ」と手紙を書いてもらい、それぞれの手形を作ります。成人式の時にその手紙を返して、それぞれ読んでもらい、故郷意識を持ってもらえるように工夫しています。

Ⅱ 高齢化に伴う自治会退会に歯止めを

高齢化が進んでいるため、自治会の存在そのものが危機的です。高齢になると、順番に回ってくる班の役割が難しいという理由で退会する世帯もあります。退会する世帯を減らすため、自治会の説明会を開催したり、ご自宅を訪問したりしています。しかし、一度退会を決めた方をもう一度入会をお願いすることは難しいため、今後も他の対策をして、この問題を解決したいと思っています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性には女性の、男性には男性の視点があり、それぞれの視点で地域を見渡すことにより、幅広くフォローができると思います。つまりどちらか一方に偏るのではなく、両方の存在が必要だと思っています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

一生懸命活動をしていれば、皆さん必ず協力してくれると思います。自信を持って活動していただきたいと思います。

事例
27

女性が集まる場を作り、 女性のつながりを広げる

兵庫県小野市 こうど 広渡町自治会

自治会紹介

- 全世帯数：236 世帯
- 自治会加入率：236 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：4 人／16 人中（25%）
- 地区の概要：美しく耕地整理された田が一面に広がる、のどかな田園地帯にあり、約 240 戸の住宅地からなる。かつては、兼業農家として、ほとんどの家が米作りをしていたが、現在は一部の農家が依頼を受けた田の米作りを、一手に担っているのが現状である。



自治会長になったきっかけ

5 年ほど前から町の役員をして欲しいと依頼されていましたが、仕事が忙しかったため、退職するまで待ってもらいました。寺や町の会計担当を務めた後、前区長から次年度の区長に推薦されましたが、農村部で女性の区長は無理だと断り続けていました。市で女性役員を登用した町への補助金事業が平成 25 年度から実施され、地区女性役員の割合も市内で約 33%と増加し、女性リーダーが育ってきたことや、町内の男性の後押しもあり、区長を受ける決断をしました。

女性や高齢者が集まれる場づくり

Ⅱ 健康体操教室や食事会を開催

町内の絆づくりと、住みよい環境づくりを目標にして取り組んでいます。例えば、区長就任当初は、婦人会がなく、女性のつながりが全くなかったので、健康体操教室を毎週 1 回開催し、女性が集まれる場を作りました。その結果、20 数名が集まるようになりました。また、2018 年 12 月には、社会福祉協議会や他の自治会と連携し、高齢者の集いの場として食事会を開催しました。参加した約 40 人の高齢者からは楽しかったという声を聞くとともに、食事を提供した女性たちからも達成感があったという声がありました。今後は、食事を作るボランティアの募集をし、地域の女性が活躍できる場を作っていこうと思います。また、参加した高齢者からも食事を提供したいという希望もあり、どんどん新しい女性のつながりが生まれてきました。

女性のリーダーを育成し、住みよい地域に

Ⅱ 寺子屋などを通して、地域で子どもを育てていく

子どもたちに公民館を開放し、夏休みに寺子屋を実施したり、雑草だらけの児童公園を整備したりして住みよい環境づくりや町民同士の絆づくりを推進しています。私自身、この町で育ち、両親が共働きだったため、地域に育てていただきました。そのような経験から、勉強ができる場を作り、地域で子どもを育てていきたいという想いから、退職した住民を集い、寺子屋を開設しました。

Ⅱ 女性リーダーを育成し、継続的な自治会に

男性が気づきにくい点に着目し、女性ならではの細やかな気配りが生かせるよう役員との意思疎通や連携を密にしながら、常にみんなで相談して決定するようにしています。それによって、みんなが町のことを考える機会にし、次の区長や役員の育成にもつながりたいと思っています。また、女性の持っている力が活かせるよう女性リーダーの育成に力を入れることが重要だと思います。私自身もそうでしたが、本当に自分ができるのだろうかという不安が先に立って、決断を鈍らせてしまうことが多いです。いろいろな人の意見を聞いたり、学んだりすることで、一歩進んだ決断ができるようになると思います。場が与えられても、人材が育っていなければ次へは進めないと思います。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性がひとり入ることで、場の雰囲気が変わることがあります。男性同士のつながりもスムーズになり、揉め事が少なくなります。女性の意見を聞くことで、男性自身の考え方の多様化にもつながると考えられます。また、男性同士で意見の相違があると、すぐに喧嘩のようになってしまうこともありますが、女性が間に入ると、比較的穏やかにその場が収まることもあると感じます。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

町内の方に喜んでもらえるような取組みを進めたいと思っており、そのためには、まず自分が区長の仕事を楽しめるようにしたいと思いました。区長になって、今まで知らなかった人と新たなつながりができ、応援してくださる方が多いことが分かりました。「女性区長で話しやすい」、「細かいことにも、気をつけてくれて安心」と言ってくださることもやりがいにつながっています。また、知らない間に応援や助け船を出してくださる先輩方もいて、役を引き受ける前の不安は全く感じませんでした。是非、周りの皆さんと協力して、楽しんで自治会の仕事をしている女性が増えればと思います。

事例
28

地域の女性の声を聞いて、 住みよい街づくり

静岡県浜松市南区 青屋町自治会

自治会紹介

- 全世帯数：498 世帯
- 自治会加入率：498 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：2 人／6 人中(30%)
- 地区の概要：浜松市の東の玄関口である天竜川駅の南北に位置し、大変利便性の良いところだが、田舎の良さもある地域。



自治会長になったきっかけ

もともと、市の男女参画局にいたこともあり、1997 年度に評議員から自治会長の推薦を受けました。しかし、当時、女性の自治会長が市におらず、一部反対があったため、3 年間、副会長を務めることになりました。その後、2001 年から浜松市で初の女性自治会長となりました。2006 年に「女が何度もやっていたのでは男の立場がない」という声などがあり、辞任しました。3 年後に、自治会長候補がいなかったことにより、再び自治会長の依頼があったため 2010 年から 2013 年まで 2 回目の自治会長を務めました。変わらずに非難の声もあったため、4 年間の任期終了時に再び辞任しました。私が交代後しばらく経って、後継者がおらず、また頼まれたので、現在、3 回目の自治会長を務め、今年で通算 11 年目になりました。

女性の声を聞いて、実現する

Ⅱ アンケート調査を実施し自治会長のニーズを把握

アンケートを実施し、地域活動の参考にすることを良くしております。例えば、ゴミ当番についてアンケートを取った際には、住民一人一人の意見を聞くことができ、みんなが納得するゴミ当番制にしました。あまり意見を言わない女性の意見もアンケートを通して聞くことができるので、住民の率直な意見を聞きたい時にはアンケートを実施しています。

Ⅱ 住民のニーズを把握し、実現する

住民からの希望もあり、防犯灯・消火器などの防犯グッズを防災備品リストなどに明記し、災害時に困らないような対策をしています。実際に、台風の時に停電になった際、

発電機を準備しておいたため、携帯電話の充電や冷蔵庫の電気が止まらずに済み、特に携帯電話を常に使用している若い女性に感謝されました。また公園に手洗い場がないという声から、備え付けの手押しポンプを公園に設置し、子育て世代の女性から感謝されました。

|| 役員名簿を世帯名から個人名に

役員名簿は世帯主の名前で書かれていたため、多くの場合で男性の名前のみが書かれておりました。しかしながら、会議に出る女性の名前と名簿の名前が違うことに対して問題提起し、それ以来、役員名簿は個人名となり、名簿上の女性数も3割から5割となりました。

行政や他の組織との橋渡し

|| 行政や他の組織との調整

当自治会は、行政と共に街づくりを行っています。例えば、町の道路整備について、行政に住民の意見を伝えたり、JRの線路ができた際は、どこまでを自治会が掃除するかなど生活に欠かせない事柄の話し合いをしたりしました。行政や他の組織と調整するのは自治会長にとって重要な役割です。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

これまでは上に立つ人は男性と刷り込まれてただけで、女性の方が地域への対応力があると思います。女性の力と男性の力で共に参画する自治会活動になればと思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

とにかくまずは地元の自治会の総会に出てみてください。自治会の収支が分かると、お金が何に使われているのかが分かります。自治会だけでなく、行政からどのような支援を得られているか実態が分かります。そのような情報を得ることで、自分たちの地域の問題に気づくことができます。そして、そこから女性が発言することが大事です。是非、発言して女性の声をまずは届けてください。

事例
29

女性役員の割合を増やして、 女性の活躍の裾野を広げる

岐阜県恵那市 三郷町自治区

自治会紹介

- 全世帯数：859 世帯
- 自治会加入率：676 世帯（79%）
- 自治会女性役員数：3 人／25 人中（12%）
- 地区の概要：恵那市の中西部に位置する、なだらかな丘に並ぶ田畑や川、里山に囲まれ四季折々の風景が楽しめる地域。



自治会長になったきっかけ

これまで、三郷町の野井区会計をしておりました。自治連合会監事も 8 年間兼務し、その後、三郷町の地域計画策定委員長をしました。その経験から三郷町 3 区長の推薦を受け、三郷地域自治区会長となりました。

地域活動の中で女性の活躍を促す

Ⅱ 地域活動に係る女性の割合を増やす

かつては、男性中心で行われてきた地域活動の中で、女性自治会長としての私の役割は、地域自治区の街づくりの全体統括、地域自治区運営委員会、地域協議議会の運営などです。その中で、「教育文化部会」や「健康福祉部会」など、各種街づくり団体の運営サポートをしています。女性もしっかり街づくりに参加してもらうために、各団体の男女の割合を半々にするように選び方を工夫しています。その結果、女性の意見を取り入れた活動が実現しました。例えば、「体育部会」が主催する「ふれあいスポーツ大会」では、女性や子どもが参加しやすい競技やプログラムが増えました。その結果、多くの女性がスポーツ大会に参加してくれるようになりました。

Ⅱ 女性に役割を与えて、活躍を後押し

地域の役員を選ぶ時に女性を多く選び、役割を与えていく事で基礎ができ、その継続で女性に自信をつける事が大事だと思います。私自身も長年会計を務めたことで区の全容を把握することができました。その経験から、女性に役割を与えることで、女性が活躍する基礎ができると考えております。例えば、各自治会の地域協議会の女性割合を 3~4 割にするよう、市から各自治会に要請をするようお願いしたことがあります。実

際には3~4割までに達しないまでも、女性の人数が1~2人ではなく5人ぐらいになるだけで、協議会の中で、女性も発言しても良いんだという雰囲気になるため、女性の発言が自然と増えました。そのようなことが積み重なると、女性に自然と自信がつくと考えています。最終的には、女性の市議会議員、審議会委員を増やし、女性の意見がより多く反映される社会にしていきたいです。

女性のきめ細かい視点で福祉を充実

Ⅱ 高齢者向けのサービスを充実

きめ細かい部分にまで目の向く女性の特性を生かして、高齢者に対する総合的な福祉を充実させる活動をしました。例えば、一人暮らしの高齢者の見守り、草むしり、ゴミ捨てのお手伝いなど、高齢者向けの支援を始めました。また、送迎付きの介護予防教室を開催し、年間1,200人の方に参加していただいております。また女性が高齢者向けの福祉活動をすることで、高齢者も相談がしやすくなると実感しています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が参画することで、男性中心で運営されてきた活動が女性の視点で幅広く考え、周知できることや、女性や子どもに関わる事柄に目が向くようになることなど様々な利点があると思います。我々の地域では少しずつ女性を登用すべきだという地域が増えて、裾野が広がりました。その結果、共感や協力してくれる人ができ、地域活動が活性化すると思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

私は、今までに培ったものを活かすことを楽しみに、生涯現役という気持ちでいたいと思います。地域の住民から、あなたに自治会長を任せたいと言われたら、是非、その期待に応えていきましょう。男性も、女性もお互いに少しの勇気と行動を持つことが大事だと思います。男性のポストは、次も男性がやるのが当たり前になっていますが、それを少し考えて、男性は席を譲る勇気、女性はせっかく空けてくれた席を受け取る勇気を持つことが重要です。そうすると、自然にこれは男性のポスト、女性のポストと言わずに、みんなができるようになると思います。

事例
30

負担にならない自治会活動により、 多様な住民の参加を促進

宮城県仙台市泉区 いちなざか 市名坂東町内会

自治会紹介

- 全世帯数：250 世帯
- 自治会加入率：187 世帯（75%）
- 自治会女性役員数：8 人／8 人中（100%）
- 地区の概要：休耕田を住宅地及び商業地に転用した新しい土地で、当自治会は 2008 年に運営を開始。



自治会長になったきっかけ

新興団地の交流促進や自治体活動への知識不足の解消等の観点から女性 8 名で自治会を立ち上げることを決めました。その際に、自治会長になり今年で 12 年目です。夫は単身赴任で、一人で 3 人の子育てをされていて不安もありましたが、周りの支えもあり続けられています。自治会を作る時に、「女性であってもひるむな」と言葉をかけてくれた方がいました。決して、女性が！女性が！と声をあらわにせず、「しなやかに、笑顔で」をモットーにしています。

身の丈にあったオリジナリティのある自治会づくりに

Ⅱ 負担のない、無理のない自治会活動を実現

自治会の活動に取り組むにあたっては、役員の方々が家庭を第一と考え、負担がかからないように心がけています。例えば、家庭での団らん、休日の休養は大事なことを考え、自治会の行事や自治会活動等は土、日、祝日は極力避けるようにしています。また、ごみ清掃は外部に委託をして、皆さんにごみ当番の負担をかけず、住民同士の不平等が生まれないような工夫もしています。できないことはできないと線引きすることが大切だと思います。無理のない運営により女性をはじめ、たくさんの住民が参加して下さる自治会が実現しました。皆さんがこの町に住んで良かったと思われるような街づくりを目指したいと思っています。

子育て世代から多様な住民の交流を促進

Ⅱ 女性目線で始まった子育て支援

当自治会は、乳幼児を持つ母親が多い特徴があります。その中には転勤族が多く、親せきや知人も少ない孤独な母親も多くいることに気づきました。そこで子育て支援（名

称：ずんだっこ）を週2回、集会所を開放して、開催することにしました。年間約1,500人の方にご参加いただき、中には外国人の方の参加もあります。東日本大震災が起こった2011年から続けているため、10歳になる子どもとクリスマス会を行ったり、地元のお寺と協力して豆まき大会をしたりなどの催し物も最近は行っています。母親目線で様々なことを、様々な視点から見ていることも必要なため、女性の自治会長だから、子育て世代の問題に気がつき、子育て支援の活動につながったと考えられます。

Ⅱ 震災をきっかけとした女性コーディネーターの設置

2011年の東日本大震災の時、新設の集会所には自治会に入っていない人も多く集まりました。その中には、赤ちゃんを抱えた若い母親も多く来ていて、防災には力を入れていたつもりでしたが、まだまだ地域に知らない人がいると分かりました。顔の見える子育て・情報交換の場があるとよいのではと子育て支援の取り組みを進めました。その経験から行なった活動の一つとして、広域的な避難所運営委員会に、「女性コーディネーターの設置」を強く働きかけ、実現に至りました。震災時に、排せつのことなどを相談できない女性が多くいましたが、今では女性コーディネーターに気軽に相談できるようになりましたし、女性コーディネーターが避難訓練などを運営し、活躍は顕著です。

Ⅱ 様々な住民の交流を促進

新興団地のため神社・寺がなく、自治会発足当時は、地元の祭りがありませんでした。そこで様々な場所から移り住んできた住民の特徴を生かし、出身県の鍋料理を振る舞うお国自慢を取り入れた企画で祭りを開催しました。宮城県なら豚汁、秋田県ならきりたんぽ鍋、青森県ならせんべい汁など、皆さんどの鍋が一番早く売れるか楽しく競い合うなどしており、話題作りにもなるため、これからも続けていきたいと思います。

また、自治会会員の中には、障害者や高齢者も生活しています。そのような方々が地域の中での交流を促進するような活動もしています。例えば、自治会のお祭りで、多機能型施設(障害者施設)のブースを置き、様々な人たちが交流を図れる場を設けました。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が自治会に参加することは、当自治会には様々な利点があるように、とても重要です。女性が活躍するために大切なことの一つは、否定するのではなく、男女がお互いを尊重して、得意分野を生かすことだと思います。また自治会のことばかりでなく、行政の会議なども多いため、家庭の理解と支援が重要だと思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

「街づくりは人づくり」、「人づくりは街づくり」だとつくづく思います。私自身たくさんの方々との交流があり、大変なこともあります。充実した時間、やりがいのある毎日を過ごすことができているので、たくさんの女性が活躍できるよう頑張りたいと思います。

事例
31

子育て、仕事と両立し、自治会運営

福岡県福岡市東区 ^{てりは} 照葉校区自治協議会

自治会紹介

- 全世帯数：約 3,500 世帯
- 自治会加入率：約 2,100 世帯（60%）
- 自治会女性役員数：9 人／23 人中（約 40%）
- 地区の概要：博多湾東岸部の人工島の東部の居住地区。人工島の西部はコンテナターミナルおよび市場地区。育児世帯が全人口全体の 74.6%を占めており、リタイア後の世代が 5%と少ない地域。



自治会長になったきっかけ

2010 年に当自治協議会の前身である照葉校区自治組織連絡会の会長を務めていた経験もあり、2016 年度の当自治協議会役員会より推薦され、会長職を引き受けることになりました。当自治協議会は、校区内の 4 つの自治会、6 つの小町内会（部会と呼ぶ。各 95~270 世帯）、7 つの設立必須団体（福岡市 8 設立必須団体のうち 1 つ未設立）、PTA、老人会などの 8 つの任意団体から構成され（計 23 団体）、照葉校区内のそれらの団体の連合組織という役割を担っています。

子育て、仕事と両立しながらの自治会運営

Ⅱ 周囲のサポートを得ながら自治会活動

自治会役員を引き受けた頃は、2 人の息子は未就学児でした。そのため、夜の会議の際に息子たちを預かって下さる方、夕食にお招きして下さる方にお世話になりました。現在は、息子たちも成長し、手がかからなくなりましたが、仕事が非常勤から常勤になったことで、今度は昼間の会議に出席することが難しいという問題に直面しました。それを解決するため、日中時間がある方に、私の職場から会議の開催場所である区役所まで送迎をしてもらったり、会議に代理出席してもらうなどの工夫をしながら自治会活動を行っています。

自治協議会の活動の透明化

Ⅱ 自治協議会内の意思決定の工夫

時間や労力は費やしますが、小さな事項も審議事項として起案化し、理事会

の合意のもとに動くことを心がけています。理事会は月1回しか開催されないため、次の理事会まで決議・承諾が待てない案件が発生することもあります。その際は「【書面決議】〇〇〇に関して」というタイトルで理事への一斉メール送信を行い、期限を決めて採決を取り、民主的な意思決定の実現をするための工夫をしています。

Ⅱ 住民への活動の内容の透明化し、住民の交流を促進

自分が会長になった後は、本会活動内容の透明化と住民への周知を即座に進めました。例えば、「てりは自治協だより」と称した月刊紙を「照葉公民館だより」の裏面に印刷し、校区内の住民に配布し始めました。校区行事のお知らせをするとともに、校区行事にボランティアとして関わる住民の皆さんへの謝辞掲載を目的とし、気持ちよく校区の活動に参加していただくことをねらいとして作成しています。また、ホームページを活用し、同様の情報提供を行っており、重要な情報伝達手段となっています。

上述のような工夫をしたことにより、性別や年齢を問わず、地域活動への参画者が増えました。例えば、夏祭りの盆踊りでは、曲を幼児用、若者用、シニア用の3部門に分け、幅広い世代が参加しやすいよう工夫しました。練習をする中で、若者がシニア用の曲を、シニアが若者用の曲を踊りたいという希望が出てきて、お互いが踊りを教え合い、自然と世代間交流が生まれました。夏祭り当日には、老若男女が全曲を一緒になって踊り、地域の連帯感を感じることができました。

また、地域内での親睦会が増えました。例えば、島のコンビニエンスストアにあるイートインスペースは地域の憩いの場となっており、会議後や打ち合せなどで利用している際に、偶然立ち寄った住民の方や他団体の方との交流が生まれるなど、つながりの輪が広がっています。イートインスペースはガラス張りなので、たくさんの人が集まりやすく、また地域の見守り代わりにもなり、重要な場所となっています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性による参画の利点は多いと考えますが、それを明示すると、男女差の比較に結び付いてしまうためあえて控えておきたいと思います。性別に関係なく、自治や奉仕の活動は人間にとって重要であると考えております。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

男女ともに地域活動に関わることで、その地域を360°の視点から見直す機会が増えます。そんな地域が増えることで、日本国内で多くの社会問題を見直す機会が増えるでしょう。そんな日本が世界をリードできるとどんなに素晴らしいことでしょう。必要なのは、身近な男女間のほんの少しの気付きと思いやりと勇気。各都道府県で同時多発的にうねりを起こしていきましょう！

Set off a big wave!!! (大きな波を巻き起こしましょう!)

事例
32

会長としての活動の裏には家族の支え

熊本県熊本市北区 北部東校区第4町内自治会

自治会紹介

- 全世帯数：462 世帯
- 自治会加入率：436 世帯（94%）
- 自治会女性役員数：7 人／13 人中（54%）
- 地区の概要：熊本市北区北部東小学校区の北側に位置し、温泉と自然に恵まれた団地である。熊本地震において被害が少なかった土地柄から新築・空家の購入等、転入者が増えてきており、そのほとんどが自治会活動に理解を示し、加入している。



自治会長になったきっかけ

前任の自治会長からの依頼を受け、一旦は、自分では荷が重いと感じてお断りしました。しかし、地域役員や住民からのお願いもあり、自分が出来ることをしなくてはならないと思い依頼を受けることにしました。何より一番の決め手となったのは、夫から「やってみてはどうか、協力は惜しまない」との言葉かけがあり、その後ろ盾により勇気づけられたことにあります。

家族のサポートを受けて自治会長に

Ⅱ 自治会長をはじめから夫への感謝の気持ちが大きくなった

会長になって、自分自身の行動を見直すことができ、町内の友人が増えました。そして、今まで以上に、地域住民、活動にボランティアで参加してくれる方、そして、私を支えてくれる夫に感謝する気持ちが大きくなりました。自治会長をする上で、家族のサポートは本当に有難かったです。例えば、自治会の活動で家を空けるときの、夫が掃除などの家事を手伝ってくれたり、住民の方が突然訪問されたときにも、夫が家のことを引き受けてくれて、自治会長としての役割を果たせたので、ありがたかったです。

自治会役員のほぼ半数が女性

Ⅱ お母さんネットワークを活かし、女性役員が増加

イベントや行事に関しては、女性会員のみで構成されている子ども会保護者役員 12 名の積極的な協力をいただいております。お母さんネットワークを活かし、イベント活動

参加への声かけをしてもらっています。毎年、役員改正が行われていますが、自治会役員への女性参画は盛んであり、ほぼ半数が女性役員で、近年増加傾向にあります。

少子高齢化が地域の課題

Ⅱ 少子高齢化により地域活動の担い手不足や一人暮らしの高齢者対策が課題

町内において高齢化が進んでおり、地域活動の後継者や担い手が育っていません。若い世代の担い手の発掘や退職後の人材に焦点をあて、その手腕を町内活動に活かしていただけないかと模索しています。また、高齢者の認知症対策も住民を挙げて考えていかなければならない課題だと感じています。一人暮らしの高齢者宅の近所を通りかかった際には訪問し、話を聴きながら悩みの相談にのることに併せて、安否確認を行っています。また、散歩中の方や近隣の方に積極的に話しかけることで住民との距離が近づき地域活動が行いやすくなってきました。その反面、相談の電話等が多くなってきて多忙になったと感じることもあります。苦勞していることは、地域の会合時に参集してくる住民が固定しており、幅広い年齢層の住民が参加出来ていないところです。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

子育てや子ども会活動などを通じた母親同士の付き合い、気軽に分け隔てなく話せるといった女性の強みを活かすこと、日頃の関わりの中で培ったコミュニケーション能力を発揮することで、希薄化してきたご近所づきあいや自治会活動に歯止めをかけ、地域が活性化してくるものと考えています。日本国内、特に地方で問題になってきている少子高齢化社会を見据え、高齢者や弱者への目配りや一人暮らしの高齢者宅への積極的な訪問、夏祭り等で豚汁を作りイベントに参加したりと、細やかな女性の視点を生かした活動が必要となってきています。そのためにも女性の社会活動への参画は今後ますます重要になってくるものと思っています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

役員になることが苦痛に感じる方がいる中で、誰もが気軽にお手伝い出来るように、住民の特技・特性を記載した人材リスト等を作成し、共有するような仕組みが出来ればと考えています。会長になってから地域の友人が沢山でき、会長職を終えた後も楽しく暮らしていけると感じています。誰もが住みやすい地域、子どもたちが大人になったときにここが故郷で良かったと感じてくれる地域、自分自身にとっても生きやすい地域を目指し、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

事例
33

家族に支えられながら自治会長を担う

岡山県岡山市北区 北方四日市町内会

自治会紹介

- 全世帯数：170 世帯
- 自治会加入率：165 世帯（95%）
- 自治会女性役員数：3 人／8 人中（38%）
- 地区の概要：学区に大学が2つあるため、学生アパートが多くある住宅地。古い町内で、町内会は明治33年に設立された。



自治会長になったきっかけ

約30年前に、子ども会がなかったため、子ども会を設置し、会長を務めておりました。子ども会を通して、神社でのお祭りを企画して住民の皆さんに大変喜んでいただきました。同時期に、新自治会長を探しており、子ども会の活動を評価して下さった方から推薦をしていただきました。最初は1年だけやってほしいと言われて引き受けましたが、やっているうちに30年になりました。

夫のサポートを受けながら自治会運営

Ⅱ 夫が家事を手伝ってくれて、気持ちよく自治会活動へ

女性が自治会長を務めるためには、家庭のサポートが不可欠だと思います。男性が自治会長として力を発揮できているのは、家庭において、内助の功である妻がいる場合が多いです。女性自治会長も力を発揮するには家庭で夫が支え、協力が欠かせません。例えば、私の夫は力仕事等、私が苦手なことは協力してくれるので、苦労はありません。自治会活動で忙しくて、家事が疎かになった時も文句ひとつ言わずに、家事を手伝ってくれて、気持ちよく自治会活動に送り出してくれます。

町内会活動が住民の役に立ち、協力を得る

Ⅱ 自費発行の会報が、住民の皆さんが会費を出してくれるようになり町内会会報に

毎月の行事予定を書いた会報「よっかいち」を自費で発行し、各戸配布を始めました。町内の様子がよく分かれると町民のみなさんに好評で、「よっかいち」を壁に貼って町内の予定の把握に使っていただいております。そんな中、このように生活に必要なもの

を自費発行では良くないと言っていたが、町内会でコピー代を出してもらえらることになり、町内会会報として現在まで月一回発行しています。

Ⅱ 会報を通して他の活動の参加者が増加

近年、畑が住宅化して、新しい住民が増えてきておりますが、会報のお陰で、転居してきた方の多くが自治会に入会してくださっております。皆さん自治会の様子がよく分かるようで、新しく来たばかりの方でも、役員を快く引き受けて下さったり、清掃活動、防災訓練、餅つき大会などの行事にもみなさん積極的に参加して下さいます。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

自治会の仕事はすべて快適な生活空間を実現する、生活者のための活動です。社会は男性と女性で構成されているのですから、快適な生活空間を実現するには、当然、男性の視点、女性の視点が必要です。我々の地域でも末端の自治会の1%~5%が女性自治会長ですが、上層部である連合自治会はほとんど男性が役員についているので、女性もこのような役員について意見を言う必要があると感じます。また、少子高齢時代の現代では、子育てや介護等女性が中心で関与してきた問題が自治会に浮上しています。社会的に圧倒的に優勢に立っている男性から遅れて出てきた弱い立場の女性は、社会のあらゆる弱者に対する思いやりの優しい社会を築く原動力になり、少子高齢社会の問題を解決するための入口になると思います。男女の愛のない社会のひずみは子どもや高齢者や障害者など弱い立場の人に被ってきます。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

地域の仕組みがよく分かるようになり、いろんな人と交流が出来て、社会の多くのことが学べて良かったです。会長歴30年を経て、地域を愛する心、そこに立つ強い意志があれば、できることが証明できました。女性が一歩踏出す勇気が家庭を、社会を明るく変えます。自治会長になるチャンスが来たら、男性に頼らず、女性も勇気を持って受けて欲しいです。

事例
34

婦人会と協力して自治会活動を活性化

群馬県桐生市 広沢町六丁目町会

自治会紹介

- 全世帯数：767 世帯
- 自治会加入率：566 世帯（73%）
- 自治会女性役員数：1 人／10 人中（10%）
- 地区の概要：古くから絹織物の産地として知られており、繊維工業によって育まれた技術により、遊技機産業や自動車部品産業など機械工業が発達。市内には群馬大学理工学部が立地している。



自治会長になったきっかけ

区長代理を 2 年間勤めておりました。前自治会長の後任を探しており、自治会長と区長代理を兼任することは今までないことでしたが、区長の承認があり、私に依頼がきました。最初は自治会長なんて男性の仕事だろうという気持ちで、私に務まるのかという気持ちでしたが、1 期（2 年間）だけならということで引き受けました。

婦人会と協力して月 1 回のお茶のみサロンを開催

Ⅱ お茶のみサロンを開催

自治会長になって、婦人会と共同で「お茶のみサロン」を月 1 回開催することにしました。2018 年 7 月の第 1 回以降、毎回約 15~20 人が参加しています。年齢制限は設けておらず、若い人にも参加していただきたいのですが、現在のところご年配の方の参加が多いです。参加者の方から、外出する機会になったことや、同じ町内会の方と知り合いになれたと、良い反応があり、これからも続けていきたいと思っています。

Ⅱ 婦人会を通して自治会活動を活性化

婦人会が活発に活動しているため、この流れに乗って婦人会とともに女性の地域活動への参加を促していきたいと思っています。例えば、防災訓練には、男性は出てくるけど、奥さんは参加しないことが多いです。しかし、もし婦人会の加入者数が増えれば、婦人会を通して防災訓練の参加が増える可能性もあると考えています。

女性が自治会長を続けるうえで重要なこと

Ⅱ 仕事・家庭・自治会の両立を

仕事・家庭・自治会の両立に難しさを感じることがあります。子どもが手を離れたころに、今度は親の介護が始まるのではないかと考えると自治会活動への参加にも影響があるのではないかと思います。私は幸い、夫が家事を手伝ってくれているので、自治会の活動が忙しい時は夕食も作ってくれますし、家の中で男女共同参画ができています。

Ⅱ 楽しく、長く続けたい

広沢六丁目町会では、初めての女性町会長になりました。町会行事を通じて顔見知りが増え、温かく見守られながらの町会長職です。始めたばかりのお茶のみサロンを少しずつ工夫を凝らしながら継続していきたいと思っています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が参画することで、町内会の雰囲気が変わり、男女に関わらず、意見が言いやすい町内会づくりができるのではないかと思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

女性の意識改革が大事だと思います。私自身、自治会長なんて男性の仕事だとずっと思っていました。自分がやってみて、女性にもできると思いました。全国の女性自治会長との意見交換会に参加し、群馬県は女性の自治会長の割合が低いことを知りました。意識が変われば、女性がもっと活躍できると思いますので、仲間をもっと増やしていきたいです。

事例
35

女性が自治会長になったことで、 女性の協力者が増加

佐賀県武雄市 武雄町^{かわら}川良区自治会

自治会紹介

- 全世帯数：1322 世帯
- 自治会加入率：1322 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：4 人／28 人中（14%）
- 地区の概要：以前は農家が多かったが、20 年の間でアパートなど住宅がどんどん建設され、圃場が少なくなってきた地域。



自治会長になったきっかけ

区の会計を 12 年間した経験を活かして、区長になりました。もっと地域を活性化させたいと思い、自治会長に立候補しました。

女性が自治会長になったことで、女性の参加者が増えた

Ⅱ 女性自治会長になったことで女性の参加者が増加

女性が区長になったということで、行事への女性の参加者が増え、協力をしてもらっています。例えば、運動会や祭りなどのイベントでの炊き出しなどをしてくださいました。また、子どもたちの伝統芸能である「銭踊り」の衣装がありませんでしたが、女性たちがお揃いの布で浴衣を作ってくれました。私自身、皆さんに参加を促したわけではありませんが、女性の自治会長だからか、自然と協力してくださる人が徐々に増えてきました。

Ⅱ 女性自治会長になったことで女性の要望が届くようになった

住民からの要望にはすぐ対応をすることや関係機関への要望も迅速に行うように心がけています。また、女性の意見をなるべく取り入れるようにしています。例えば、公民館のトイレが男女共同で、和式でした。多くの女性から洋式のトイレにするよう要望があったため、市に要望を伝えて、トイレを改修してもらいました。

自治会長になり積極的にイベントを開催

Ⅱ 35 年ぶりに伝統芸能「荒踊り」を復活

自治会長になり様々なイベントを試みました。例えば、途絶えていた伝統芸能の「荒踊り」を 35 年ぶりに復活させたり、毎月 2 回実施している「子どもの居場所づくり」を開設したり、年に 2 回カレーを作って老人会と子どもたちと一緒に会食をし、交流できる場を設けました。また、区民運動公園で花火大会を開催し、2,500 発の花火は、住民の皆さんにとっても喜ばれました。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

子育てや福祉の課題は、女性の視点が重要だと思います。子育て中の母親のサークルや高齢者の集まりに参加して話をし、課題があれば行政につなげるようにしています。女性や高齢者が集まる場所には、女性のほうが入って行きやすいと思います。また、子どもたちからも気軽に話しかけてもらえると感じています。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

女性の自治会長が少ない理由は、女性が表に出にくい地域性もあるし、家族の理解を得られにくいということもあると思います。しかし、これからは女性の自治会長が増える必要があります。川良区の役員となって 20 年になりますが、区民の方ほとんどの方と知り合え、親しくなれたことが一番良かったと思います。

事例
36

自治会長の女子会を開催

奈良県生駒市 ^{み か}美鹿の台自治会

自治会紹介

- 全世帯数：332 世帯
- 自治会加入率：332 世帯（100%）
- 自治会女性役員数：1 人／6 人中（17%）
- 地区の概要：街開きをして 12 年の地域。30～40 歳代の働き盛り、子育て世代が多く住む地域。



自治会長になったきっかけ

自治会長を務める前の年に、中学校の育友会会長を務め、地域の方々と交流する機会が多く、前会長から推薦していただきました。2 年目は、多くの住民の方々から引き続きお願いしたいというお声をもらい、立候補しました。

女性を対象として活動を積極的に実施

Ⅱ 女性自治会長の女子会を開催

女性役員の意見を共有できる環境、機会を設けて欲しいという声が各自治会長から挙がったため、長年自治会長を経験された先輩の声かけで、1 自治会だけでなく北地区の自治会長による女子会を開催しました。女性の自治会長ならではの問題を共有できる場となり学びも多く、次回開催も予定しています。また、今後生駒市全体の女性自治会長を集めた女子会も開催予定で、徐々に女子会の輪が広がってきています。

Ⅱ 女性が活動しやすいように環境を整備

住民の大半が共働き、子育て世帯なので、自治会活動に関心がなく、役員のなり手がいないという問題があります。くじ引きで役員を決めたりもしますが、嫌々役員になると、最低限の活動しか行わず、自治会活動は発展しません。そこで不平等が出ないように、乳児がいる世帯は、自治会役員の免除対象とすることを明確化しました。また、自治会便りに活動の様子が分かる写真を掲載するなど、自治会の皆さんに自治会活動を良く知ってもらう工夫を行いました。今後は、防災や環境の委員会活動など、女性の視点

をもっと活かしてほしい自治会以外の活動へも、女性の参加を増やしていければと思います。

楽しい行事を設けて、自治会に関心を向けてもらう

Ⅱ 行政と自治会の橋渡しをして女性の声を届ける

当自治会は共働き世帯が多く、直接市役所に声を届けることが難しいので、私が代わりに市役所へ住民の声を届け、行政と自治会の橋渡しをしています。また、行政としっかり連携するために、市役所へは電話でなく、直接足を運ぶことも大切にしています。

Ⅱ 様々な住民の交流を促進

自治会活動は負担が大きいというマイナスイメージが先行しがちですが、活動に参加すると、知り合いが増える、住民が喜んでくれるなどの利点があり、やりがい、充実感を得ることができます。そのように住民の皆さんにプラスの考え方を持ってもらい、参加しやすい、見える自治会活動にするため、楽しい行事を設け、今の子供たちが将来、自治会活動に積極的に参加しようと思ってもらえるような基礎をつくりたいと思っています。具体的には「子どもお楽しみ会」を今年の夏に初めて企画し、午前中は宿題をし、お昼はカレーやパフェを作り、午後は牛乳パックを材料に竹とんぼづくりをしました。50人ぐらいの子どもが楽しんで参加してくれたため、今後はもっとこのような活動を増やしていきたいと思っています。

自治会活動へ女性が参画することの重要性

女性が自治会長を務めることにより、多様な視点から物事を考察できると考えられます。具体的には、女性の方が話しかけやすい場合もあり、多くの声を聞くことができる、ご近所など周囲の協力を得やすい、地域にいる時間が長いので、地域のことをよく知っている、など。子供、お年寄りとの接し方が上手なため福祉の面で充実できるなどの利点があると思います。



これから続く女性自治会長へのメッセージ

日本の女性は控えめです。私が、私が、と前に出る気持ちで勇気をもって壁を壊せば、もっと女性が活躍できると思います。